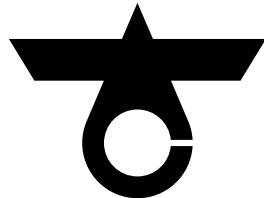


大阪狭山市文化財報告書41

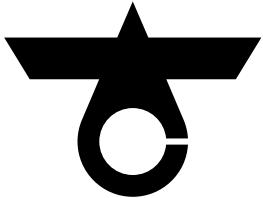
# 大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書22



平成25年（2013年）3月

大阪狭山市教育委員会

# 大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書22



平成25年(2013年)3月

大阪狭山市教育委員会

# 序 文

東西2.5キロ南北7キロの大阪狭山市域には、市のシンボルでもある狭山池をはじめとして、古代の焼き物の須恵器を焼いた窯跡が数多く点在する陶邑窯跡群や、江戸時代には狭山藩の藩主である北条氏が御殿を構えた狭山藩陣屋跡など、27カ所の遺跡が存在します。

遺跡は私たちの先人たちの生活の痕跡です。しかし、それらを現在に生きる私たちが大切に共生しながら大阪狭山市の歴史として継承するためには、地下に残された遺跡、埋蔵文化財を記録し保存するなどの迅速な対応が求められます。

近年、さらに大阪市内への住宅都市として発展する本市では、埋蔵文化財の発掘調査を継続して行っています。

本書は、平成23年度・24年度に国の補助を受けて実施した発掘調査の概要を記録したものです。本書が埋蔵文化財の保護と理解のための一助となりますよう願ってやみません。

調査の実施にあたりましては、土地所有者、施工関係者、近隣住民の皆さまから深いご理解とご協力を賜りました。ここに厚く感謝の意を表しますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成25年3月25日

大阪狭山市教育委員会

教育長 小林 光明

# 例　　言

1. 本報告書は、平成 23 年度・平成 24 年度国庫補助事業として大阪狭山市が実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本書に収録した調査は以下のとおりである。

平成 23 年度	1. 半田城跡 (HDJ11-01、HDJ11-02)
	2. 中高野街道 (NKY11-01、NKY11-02)
	3. 陶邑窯跡群 (SM11-01)
	4. 試掘調査 111226 区
	5. 陶邑窯跡群 陶器山 309・310 号窯 (MT309・MT310)
平成 24 年度	1. 池尻遺跡 (IJ12-01)
	2. 陶邑窯跡群 (SM12-01) 陶器山 42 号窯 (MT42)
3. 平成 23 年度は、大阪狭山市教育委員会教育部社会教育・スポーツ振興グループ 平野淳、土江文子、平成 24 年度は植田隆司、土江文子が担当し、本書の執筆編集は土江が行った。
4. 発掘調査及び内業整理については、下記の諸氏の参加を得た。

若宮美佐、橋本和美、松浦史甫、川岸茉未、岡本順子、南たえ (平成 23 年度)
若宮美佐、橋本和美、岡本順子、南たえ、北嶋未貴 (平成 24 年度)
5. 遺物写真の撮影は阿南写真工房に委託した。

# 目　　次

序文 大阪狭山市教育委員会教育長 小林光明

例言

はじめに ..... 5

平成 23 年度

1. 半田城跡 (HDJ11-01、HDJ11-02) .....	9
2. 中高野街道 (NKY11-01、NKY11-02) .....	14
3. 陶邑窯跡群 (SM11-01) .....	19
4. 試掘調査 111226 区 .....	25
5. 陶邑窯跡群 陶器山 309・310 号窯 (MT309・MT310) .....	28

平成 23 年度調査 小結 ..... 30

平成 24 年度

1. 池尻遺跡 (IJ12-01) .....	31
2. 陶邑窯跡群 (SM12-01) 陶器山 42 号窯 (MT42) .....	37

平成 24 年度調査 小結 ..... 42

平成 23 年 (1～12 月) 調査一覧表

平成 24 年 (1～12 月) 調査一覧表

図版

報告書抄録

# はじめに

## 大阪狭山市の現況

市域の地形環境は、第1図にあるように、東西の羽曳野丘陵・泉北丘陵に挟まれ、市域のほぼ中央に西除川（旧天野川）の形成した沖積低地がある。川を堰き止める形で狭山池が位置し、その低地部分の東西に低位段丘・中位段丘がそれぞれ形成されている。

大阪狭山市は、1960年代後半の市域南部でのニュータウン開発を機に、人口が急増した。1980年代以降は小規模な宅地開発が続き、人口は約58,000人でほぼ同じ規模で推移している。

市内における埋蔵文化財の調査は、1980年代までに建築された個人住宅の建替えに伴う調査が主流であるが、埋蔵文化財包蔵地内外での宅地開発も増加しつつあり、近年は新たな遺跡も発見されている。

## 歴史的環境

旧石器時代の資料としては、東野地区・池之原地区・ひとつ池でナイフ形石器が採集されている。

縄文時代の資料としては、寺ヶ池遺跡・東村遺跡・大鳥池遺跡・へど池・狭山池・ひとつ池・上明池・池之原地区で採集された石鏸やスクレイパーなどがある。

弥生時代には、市域南部の茱萸木遺跡において高地性集落が確認されたと記録に残るが、その詳細については不明である。

古墳時代前期には、旧天野川流域の沖積低地に立地する池尻遺跡で、溝・土坑・焼土坑など住居跡となる可能性のある遺構とともに庄内式の甕・壺と布留式の土器が出土しており、古墳時代前期までには旧天野川流域に集落が成立していたことを示している。

古墳時代中期以降、泉北丘陵を中心に須恵器生産が開始し、陶邑窯跡群が形成された。6世紀代までの市域内における窯の造営は、陶器山丘陵周辺に集中する傾向がある。7世紀代に入ると須恵器窯の数は減少するが、狭山池主谷周辺の狭山池1号窯をはじめとして、東池尻1号窯・狭山池5号窯・ひとつ池西窯などが確認されている。

7世紀前葉、旧天野川と三津屋川の流れをせき止めてダム式の溜池である狭山池が造られた。この狭山池の北堤の直下から検出された下層東樋の年輪年代法による調査の結果、狭山池の築造年代は、616年以降の非常に限定された時間幅の中に求められることになった。その後7世紀後葉から8世紀初頭には、旧天野川右岸の中位段丘上に東野廃寺が建立された。

狭山池に関する記録として、天平3（731）年に僧行基が狭山池院と尼院を建てたと『行基年譜』に記されている。これに関連する建物跡は現在までに確認されていない。しかし、天平宝字6（762）年の狭山池の大規模な改修を記した『続日本紀』の記録は、発掘調査により狭山池北堤の幅を築造当初と比較して2倍に拡大するという大規模な盛土工事であったことと符合するに至った。

平安時代の弘仁10（819）年には、僧勤操が「狭山池所」にいたと『顯戒論』という書物に記されている。狭山池に関わる役所を狭山池の近傍に設置していたと推測されるが、狭山池院と同じくその詳細については不明である。

鎌倉時代の初期、東大寺を復興した僧重源によって狭山池の改修が行われた。狭山池の発掘調査で「重源狭山池改修碑」が出土し、この碑文から『南無阿弥陀仏作善集』にみえる建仁2（1202）年の改修が裏づけられた。

12～13世紀には、水田跡や屋敷地などの遺構が検出されている池尻遺跡の集落が営まれた。南北朝の内乱期、狭山池の北西に池尻城が築かれ、13世紀から15世紀の館跡が確認されている。

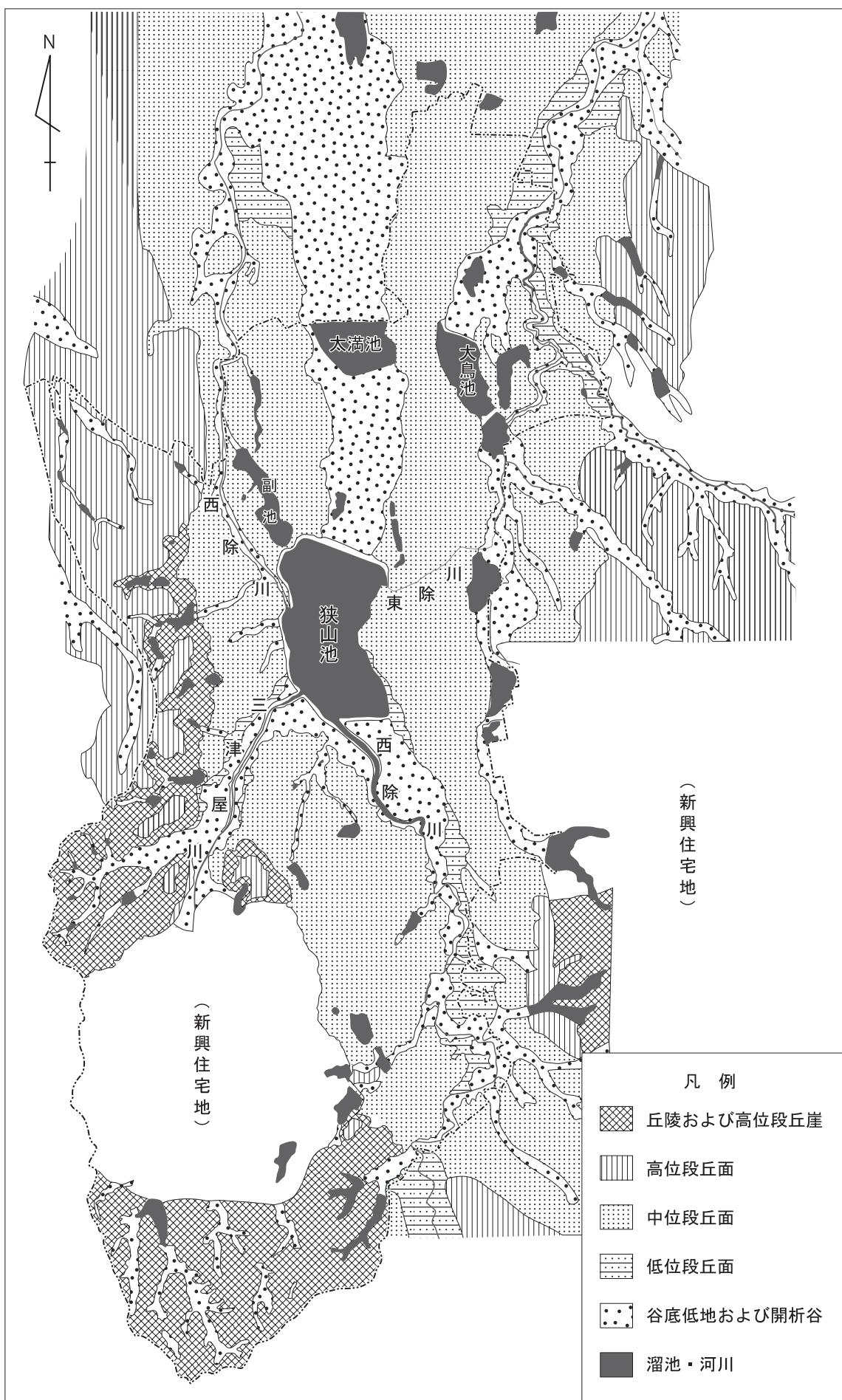
慶長13（1608）年、豊臣秀頼の後見役で摂河泉国奉行の片桐且元によって、狭山池で大規模な改修

が行われた。西樋・中樋・東樋を新たに造り、西除の造り替え、東除の新設、北堤の嵩上げを行ったことが発掘調査により明らかとなった。元和2（1616）年、小田原北条氏の子孫の北条氏信（狭山藩2代藩主）が狭山池の北東で陣屋の構築を始め、明治維新まで12代続く狭山藩が開かれた。3代氏宗の寛永14（1637）年、上屋敷の北半分が完成した。寛永20（1643）年、上屋敷の南半分と総構・土手などが完成した。陣屋下屋敷は、狭山池東側でかつて賑わった狭山遊園跡地を中心とした地域に、延宝5（1677）年に4代氏宗が構築を始め、5代藩主氏朝の宝永6（1709）年に完成した。上屋敷における発掘調査では、天明2（1782）年の大火災で形成された焼土層や灰層を境にして、大火以前の下層遺構面と大火以後から幕末頃までの上層遺構面のあることがわかった。

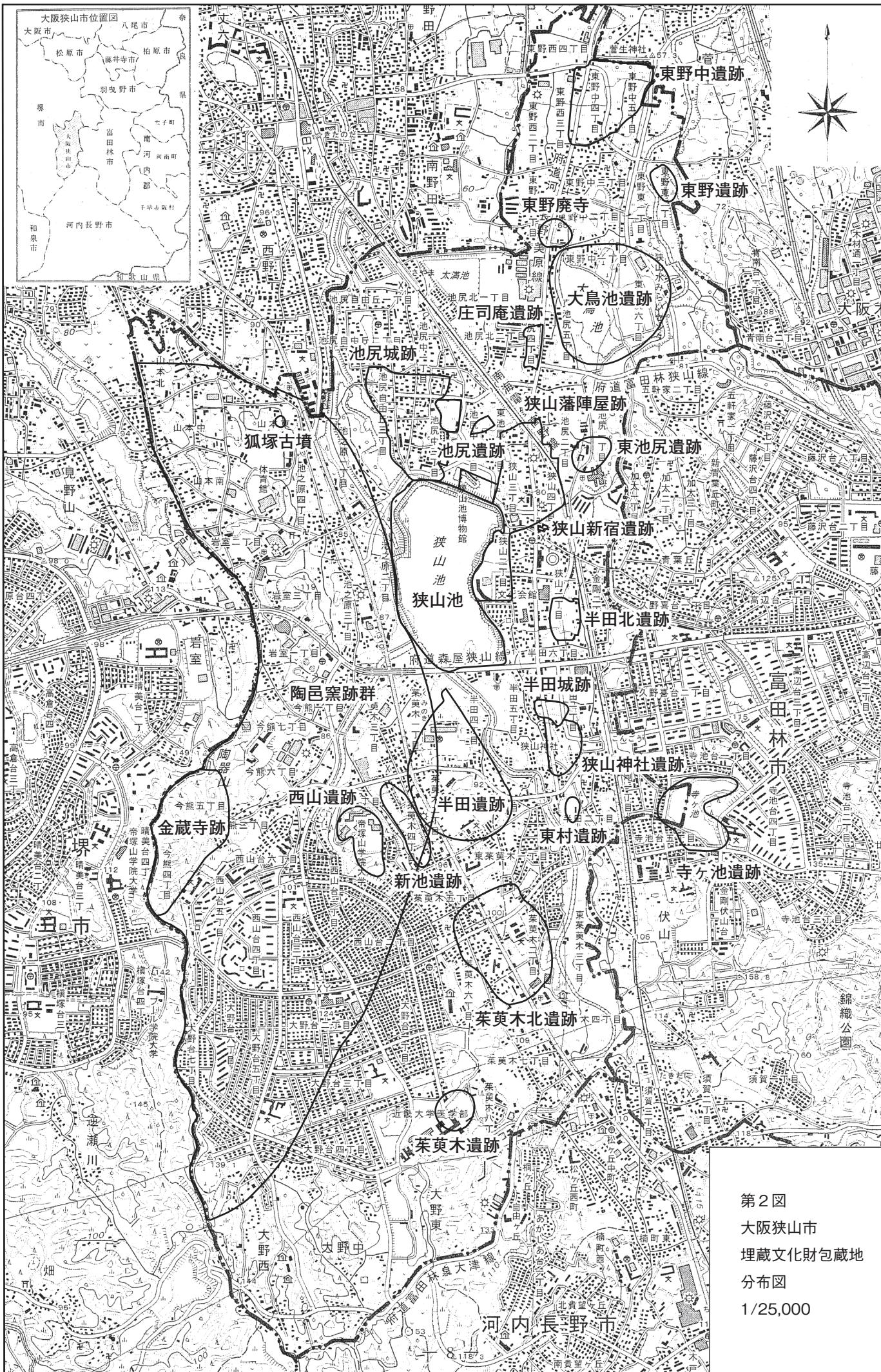
平成23年度には半田城跡の発掘調査に伴い、遺跡の範囲が現状の認識よりも広がることが確認できたため、半田城跡を北側の範囲をやや拡大して包蔵地として追加した。

### 参考文献

- 上野正和 1992年「狭山の考古学研究と私」『さやま誌大阪狭山市文化財紀要』創刊号  
大阪狭山市教育委員会 1988年『山本1号窯発掘調査概要報告書』  
1991年『太満池南窯・北窯発掘調査報告書』  
1992年『池尻新池南窯発掘調査報告書－陶邑窯跡群の調査』  
1992年『大阪狭山市史叢書 絵図に描かれた狭山池』  
1993年『ひつ池西窯－陶邑窯跡群の調査－』  
2002年『平成14年度狭山藩陣屋跡発掘調査報告書I』  
2004年『狭山池5号窯・狭山藩陣屋跡』  
2012年『陶邑窯跡群陶器山2号窯』  
大阪府立狭山池博物館 2010年『大阪府立狭山池博物館常設展示案内』  
勝部明生 1988年「狭山の石器」『大阪狭山市史要』  
日下雅義 1980年『歴史時代の地形環境』 古今書院  
大阪府教育委員会 1987年『池尻城跡発掘調査概要』  
狭山池調査事務所 1998年『狭山池 埋蔵文化財編』



第1図 大阪狭山市域の地形分類



第2図  
大阪狭山市  
埋蔵文化財包蔵地  
分布図  
1/25,000

## 平成23年度

### 1. 半田城跡 HDJ11-01・HDJ11-02

#### 調査概要

##### 1. HDJ11-01（平成23年4月20日・25日）

共同住宅建築に伴い実施した範囲確認調査としたため、遺構の掘削は行っていない。

###### ・トレンチ1・トレンチ2

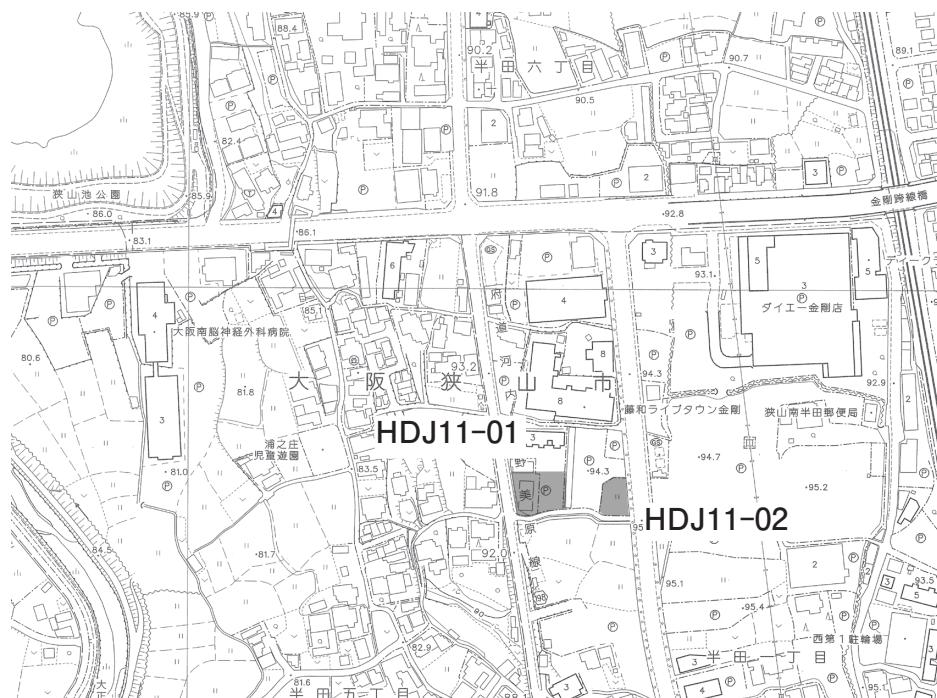
トレンチ1では現地表下20～30cmで遺構検出面が認められ、溝状遺構を検出した。トレンチ2では、地表下50cmで地山面に至り、北側で不定形の遺構を確認した。また、地山直上には層厚15cm～20cmの包含層も認められた。出土した遺物には7世紀後半から末頃の須恵器・土師器などがある。

###### ・トレンチ3・トレンチ4

トレンチ1・2の東側と北側に設定した。トレンチ3は地表下40～60cmで地山面に達し、トレンチ北側の地山面上で遺構が認められた。その直上に包含層も認められたが、出土遺物は比較的少なかった。トレンチ4では2.25m四方のトレンチを設定した。地表下40cmで地山を確認したが、遺構は認められず遺物も少量であった。

まとめると、地表下約40cmで地山面をベースとする遺構の存在が確認され、その直上には包含層が堆積し、7世紀代を主とする遺物が出土した。

以上の結果から遺跡の範囲はさらに北側へ続くことが推定されたため、周知の半田城跡の範囲を拡大させることとした（第4図参照）。



第3図 HDJ11-01・HDJ11-02 調査位置図 (1/5000)

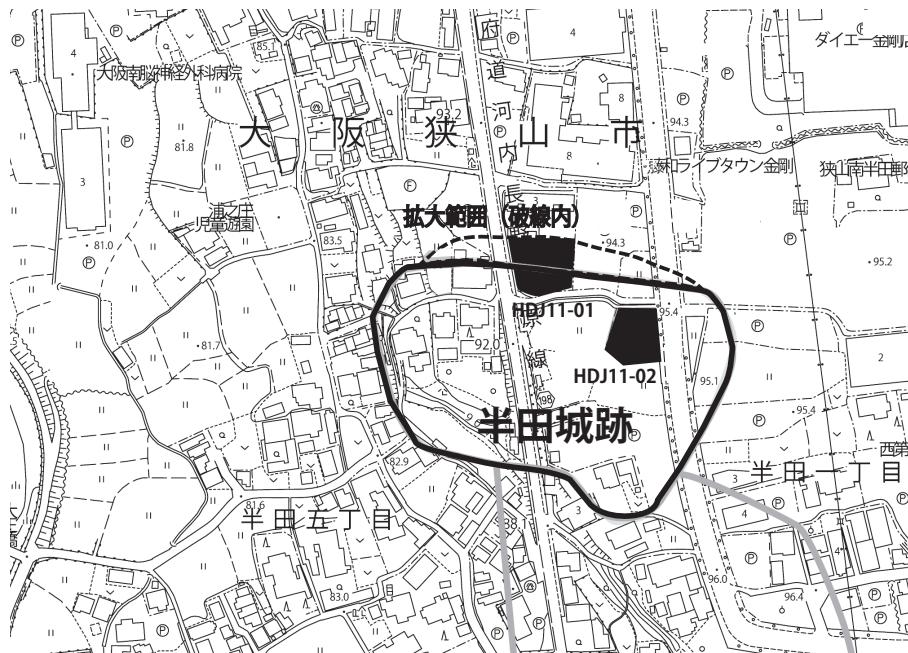
## 2. HDJ11-02 (平成 23 年 8 月 31 日)

学習塾建築に伴い発掘調査を実施した。

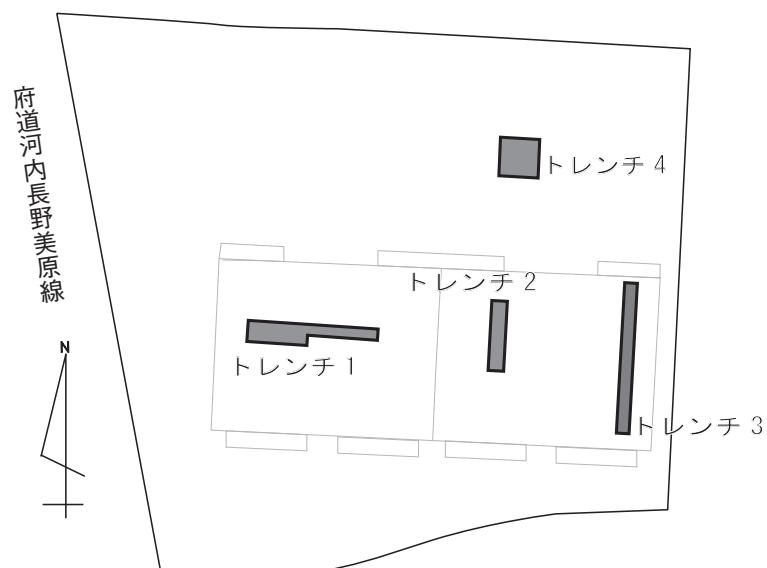
申請地内の 2 カ所にトレンチを設定した。両トレンチともに地表下 40 ~ 50cm でマンガン粒の顯著な地山面を確認し、その上位には須恵器・土師器・瓦器等を含む褐色系の砂質土が認められたが、地山面、土層断面においても遺構は認められなかった。

## 3. 出土遺物

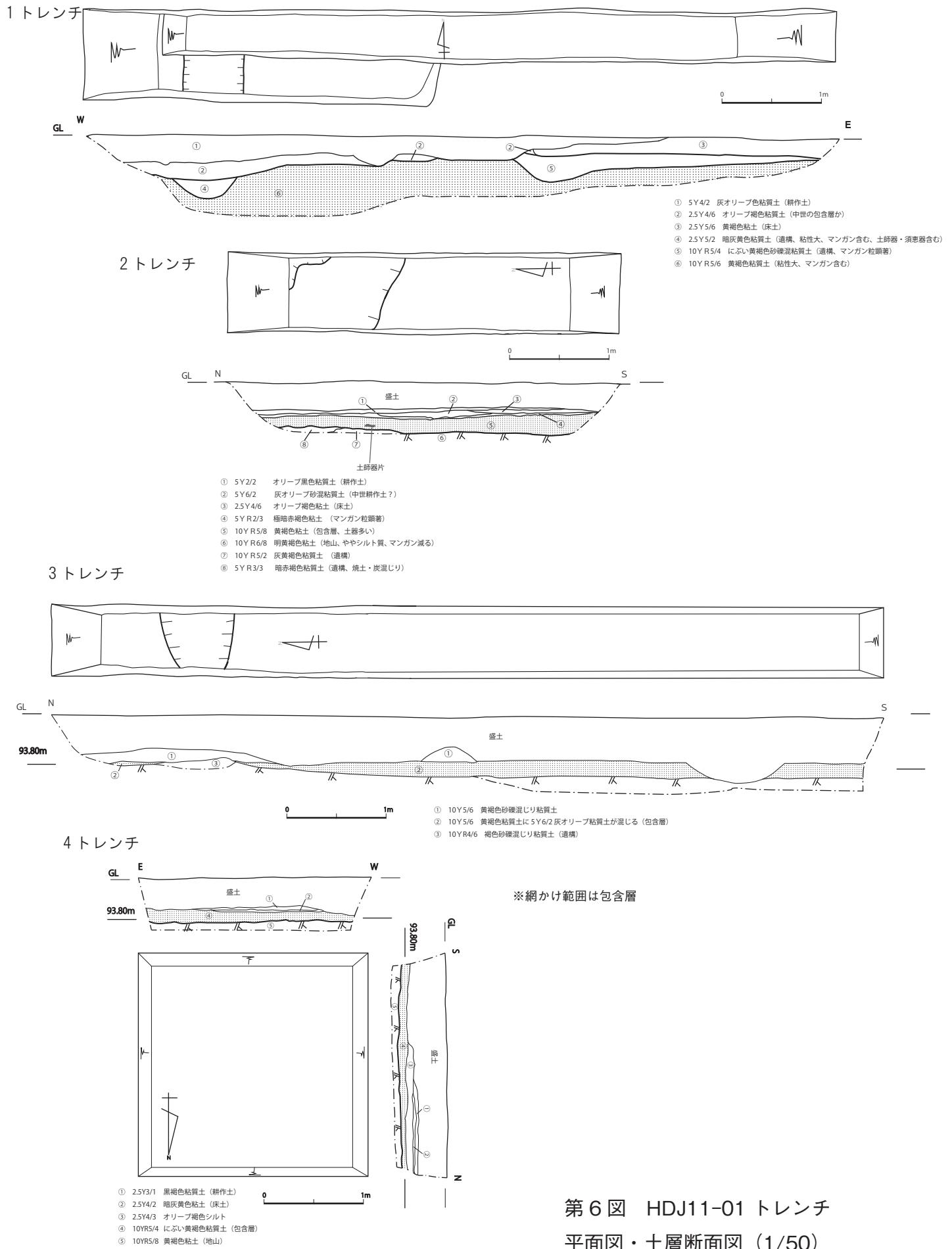
1 ~ 14 は HDJ11-01 から出土した遺物である。1 ~ 8 は須恵器、9 ~ 14 は土師器である。  
15 ~ 18 は HDJ11-02 から出土した須恵器である。



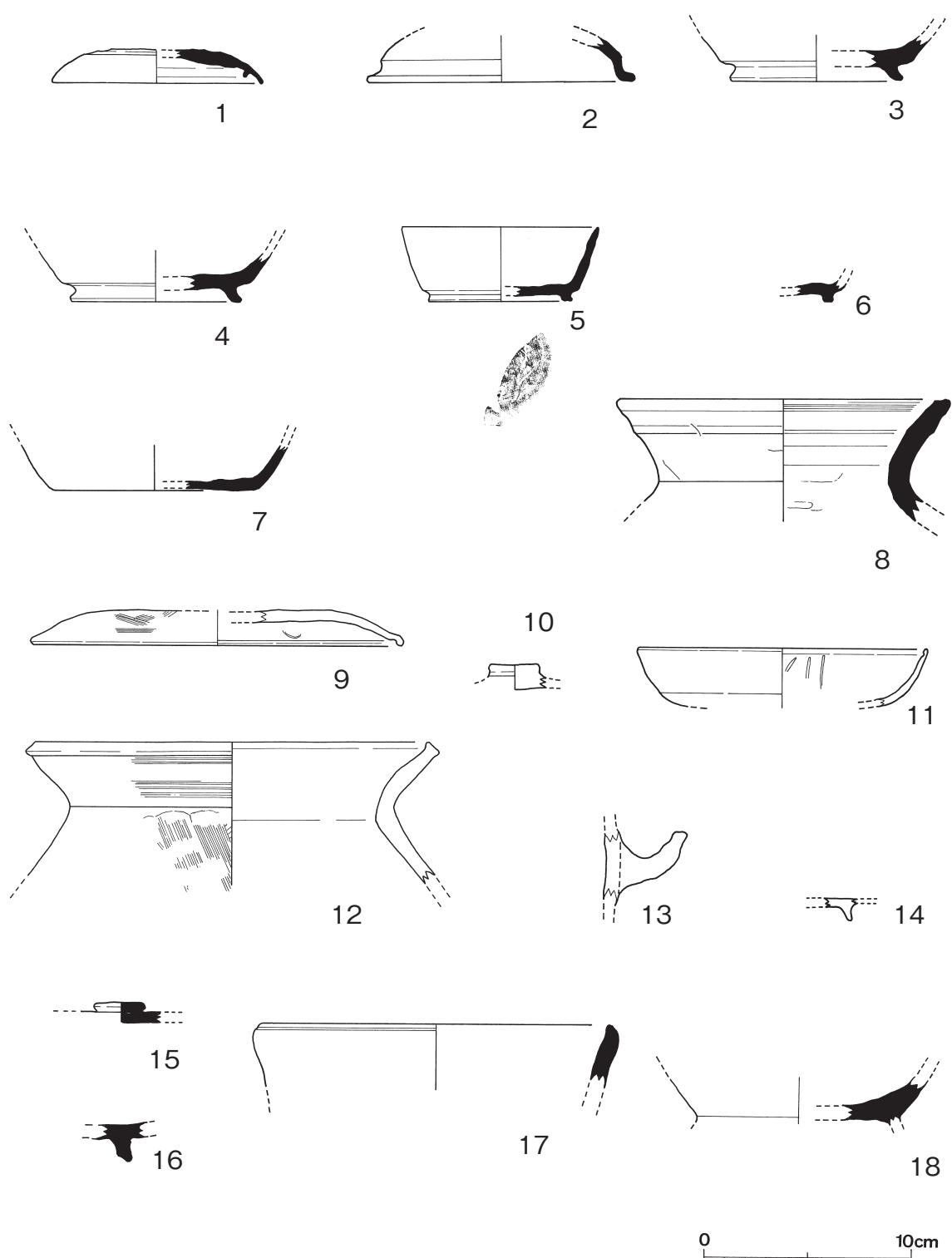
第 4 図 半田城跡範囲拡大図 (縮尺任意)



第 5 図 HDJ11-01 トレンチ配置図 (1/500)



第6図 HDJ11-01 トレンチ  
平面図・土層断面図 (1/50)



第7図 HDJ11-01・HDJ11-02 遺物実測図 (1/3)

遺物観察表

	器種	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
1	須恵器杯蓋	口径 10.2 残存高 1.6	体部・口縁部は外下方に下る。天井部は平たい。かえりは短く内傾する。	天井部外面 3/4 に回転ヘラ削り、他は回転ナデ調整。	胎土：密。1mm程度のチャート若干含む。焼成：良好、外面灰かぶり。色調：外面灰褐色。内面灰色。残存：1/5。反転復元。
2	須恵器杯蓋	口径 12.0 残存高 1.8	体部は外下方に下り、口縁部で下方へ屈曲し再び水平方向にのびる。端部は丸い。天井部を欠損する。	天井から口縁部は回転ヘラ削り。口縁及び内面はナデ調整。	胎土：密。1mm以下の長石僅かに含む。焼成：良好。色調：内外面青灰色。断面外側青灰色。断面内側褐灰色。残存：1/10。反転復元。3トレンチ出土。
3	須恵器杯身	残存高 2.1 高台径 8.2	体部は外上方に丸みなくのびる。底部は平坦である。高台部は外方に踏ん張る。	体部外面回転ヘラ削り。その他は回転ナデ調整。	胎土：密。2mm以下の長石含む。焼成：良好。色調：内外面青灰色。断面内側褐灰色。断面外側青灰色。残存：1/8。反転復元。2トレンチ出土。
4	須恵器杯身	残存高 2.4 高台径 8.2	体部は外上方に丸みなくのびる。底部は平坦である。高台部は外方に踏ん張る。	体部外面回転ヘラ削り。内面及び底部外面は回転ナデ調整。見込み部は一方向のナデ調整。	胎土：密。4mm以下の長石を僅かに含む。焼成：良好。色調：内外面青灰色。断面内側褐灰色。外側青灰色。残存：1/8。反転復元。2トレンチ出土。
5	須恵器杯身	口径 9.5 器高 3.6 高台径 6.9	体部は外上方にまっすぐのびる。端部は丸く仕上げる。底部から体部へはやや角ばる。高台は低く断面形は方形である。	回転ナデ調整。	胎土：密。1mm以下のチャートを含む。焼成：良好。色調：外面青灰色。内面、断面淡青灰色。残存：1/8。反転復元。高台外面一部に自然釉付着。底部外面にヘラ記号か。2トレンチ出土。
6	須恵器杯身	残存高 1.1	高台は低めで四角い。体部、底部の大部分を欠損する。	回転ナデ調整。	胎土：密。2mm以下の長石僅かに含む。焼成：良好。色調：内外面青灰色。断面外側青灰色。断面内側褐灰色。残存：1/10以下。反転復元不可。4トレンチ出土。
7	須恵器杯身	残存高 2.2 底径 9.6	体部は外上方にまっすぐのびる。底部は平坦である。高台は付かない。	回転ナデ調整。	胎土：密。1mm以下のチャート僅かに含む。焼成：良好。色調：淡灰白色。残存：1/10。反転復元。3トレンチ出土。
8	須恵器甕	口径 16.0 残存高 6.0	頸部から口縁部へは外反しながら上方にのびる。端部は僅かに平坦面をもつ。肩部以下は欠損。	回転ナデ調整。	胎土：密。1mm程度のチャートを若干含む。焼成：良好。色調：内面淡灰色。外面：灰色。残存：1/10以下。反転復元不可。1トレンチ出土。
9	土師器蓋	口径 18.0 残存高 1.8	器高は低く、天井部は平坦である。口縁端部は丸くおさめる。	ケズリ調整が認められる。	胎土：密。1mm以下の長石、チャートを僅かに含む。焼成：良好。色調：内面褐灰色。外面褐色。内外面に暗文がみられる。反転復元。2トレンチ出土。
10	土師器蓋(つまみ)	最大 2.8 残存高 1.2	つまみの高さは低く、扁平な形である。	ナデ調整。	胎土：密。焼成：良好。残存：1/10以下。色調：淡橙色。2トレンチ出土。
11	土師器杯	口径 13.9 残存高 2.8	端部は丸く仕上げる。	ナデ調整。	胎土：密。チャート(白)僅かに含む。焼成：良好。色調：内面、褐色。外面底部褐灰色。内面の一部に暗文がみられる。反転復元。2トレンチ出土。
12	土師器甕	口径 19.0 残存高 7.0	頸部から口縁部にかけては外反しながら上方にのび、端部外面に平坦面をつくる。体部以下欠損。	体部外面はヘラ削りの後ハケ調整、口縁部内外面はヨコナデによる調整。体部内面はケズリ調整。	胎土：密。1mm程度のチャート僅かに含む。焼成：良好。色調：淡橙色。残存：1/10以下。反転復元。2トレンチ出土。
13	土師器(把手)	残存高 3.7	湾曲しながら上方にのびる。端部は平坦である。	体部内面にはヘラケズリ、把手はナデ調整。	胎土：密。1mm以下の長石、チャート僅かに含む。焼成：良好。色調：内外面褐灰色。断面褐色。2トレンチ出土。
14	黒色土器(高台部)	残存高 1.1	高台は細い。	ナデ調整。	胎土：密。焼成：良好。色調：内面、黒色。外面、淡橙色。反転復元不可。
15	須恵器蓋(つまみ)	残存高 1.0	つまみは薄く、扁平である。	ナデ調整。	胎土：密。焼成：良好。色調：灰色。残存：1/10以下。2トレンチ出土。
16	須恵器(高台部)	残存高 1.9	高台は内側に平坦気味な面をつくる。	回転ナデ調整。	胎土：密。3mm以下の長石若干含む。チャート(白)僅かに含む。焼成：良好。色調：青灰色。残存：1/10以下。反転復元不可。1トレンチ出土。
17	須恵器壺	口径 16.6 残存高 3.1	口頸部は直立気味に上方にのびる。端部は比較的丸く仕上げる。	回転ナデ調整。	胎土：密。2mm以下のチャートを含む。焼成：良好。色調：灰色。残存：1/10以下。反転復元。1トレンチ出土。
18	須恵器壺	残存高 2.3 (底部径 9.8)	高台部を欠損する。	底部外面は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ調整。	胎土：密。0.2mm以下チャート若干含む。焼成：良好。色調：内外面、青灰色。断面、褐灰色。残存：1/10以下。反転復元。2トレンチ出土。

## 2. 中高野街道 NKY11-01・NKY11-02

### 調査概要

地下埋設物調査に伴う発掘調査であるため、遺構検出までにとどめた。調査地は、中高野街道に面する地である。「狭山池絵図」「狭山池惣絵図」（江戸時代・享保年間）には、道の両側に狭山池樋役人の家屋の軒を並べた様子が描かれ、狭山新宿とよばれた地でもある。

#### 1. NKY11-01（平成 23 年 10 月 3 日・4 日）

3カ所のトレンチを設定した。

##### ・ 1 トレンチ

深さ 70cm を掘削した。地表下 40cm ~ 50cm には耕作土が残り、トレンチ北端から 9m ~ 13m には、現代の搅乱を受けてはいるものの、水路状跡が見られた。

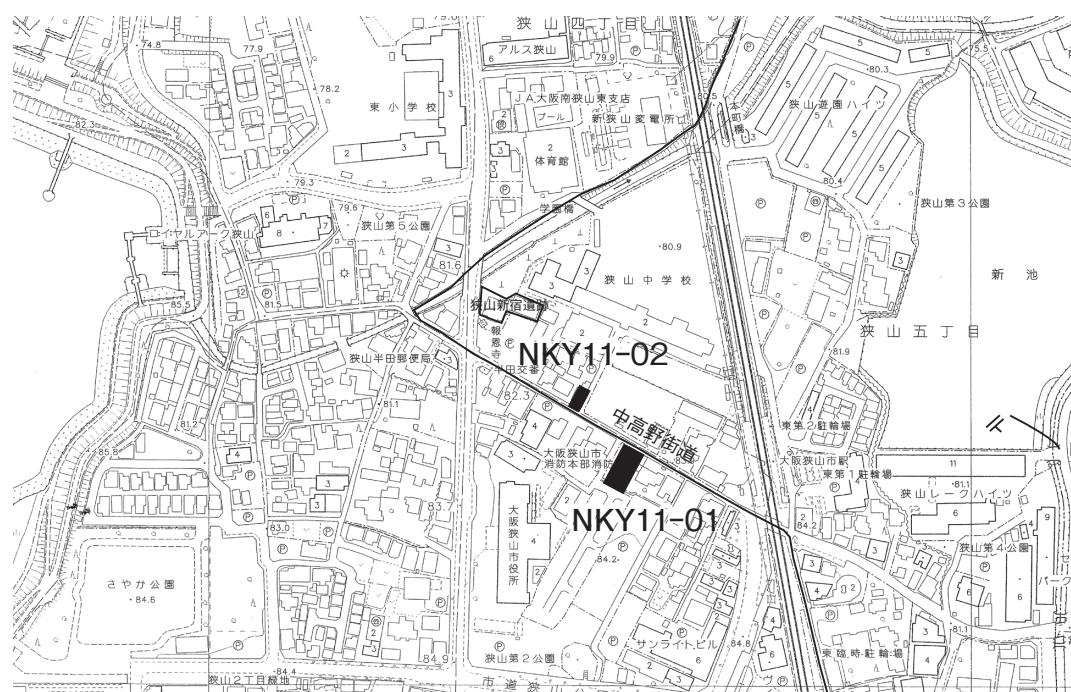
##### ・ 2 トレンチ

深さ 80cm を掘削した。地表下 40cm ~ 50cm で耕作土、60cm で地山を確認した。トレンチ北端から 9m ~ 14m には、同様の水路状跡が見られた。また、トレンチ南側で地山面をベースとする近世の溝状遺構、土坑（土師質埋甕）が確認できた。

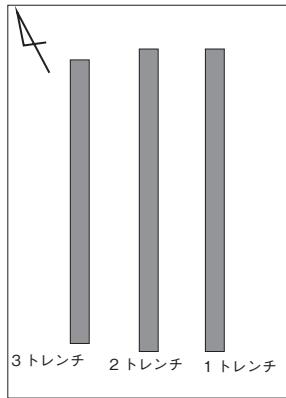
##### ・ 3 トレンチ

深さ 80cm を掘削した。地表下 50cm 以下で耕作土が残る。トレンチ北端から 8m ~ 11m には、同様に水路状跡が見られた。

1から3トレンチともに概ねトレンチ北端から 8m から 14m の辺りで水路状の遺構が見られた。これは例えば、屋敷の区画に関わる遺構である可能性もあろうかと考える。



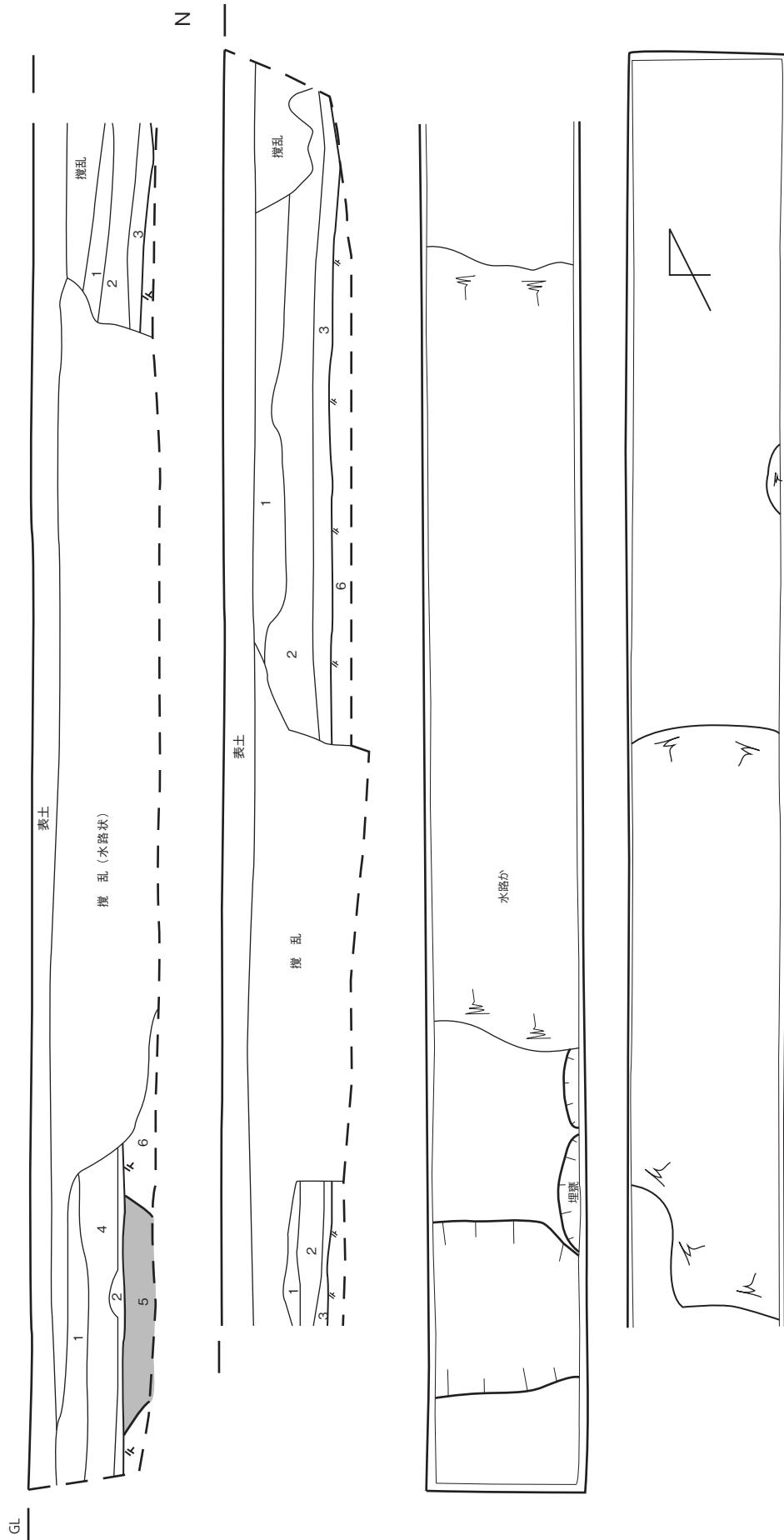
第8図 NKY11-01・NKY11-02調査位置図 (1/5000)



トレンチ配置図

1. 2.5Y7/6 明黄褐色粘土混砂礫
2. 2.5Y4/2 明灰黃シルト
3. 10YR4/4 褐色粘質土
4. 10YR7/8 黄燈色粘質土
5. 10YR5/8 黄褐色粘質土
6. 10YR5/6 黄褐色粘質土

2m  
0



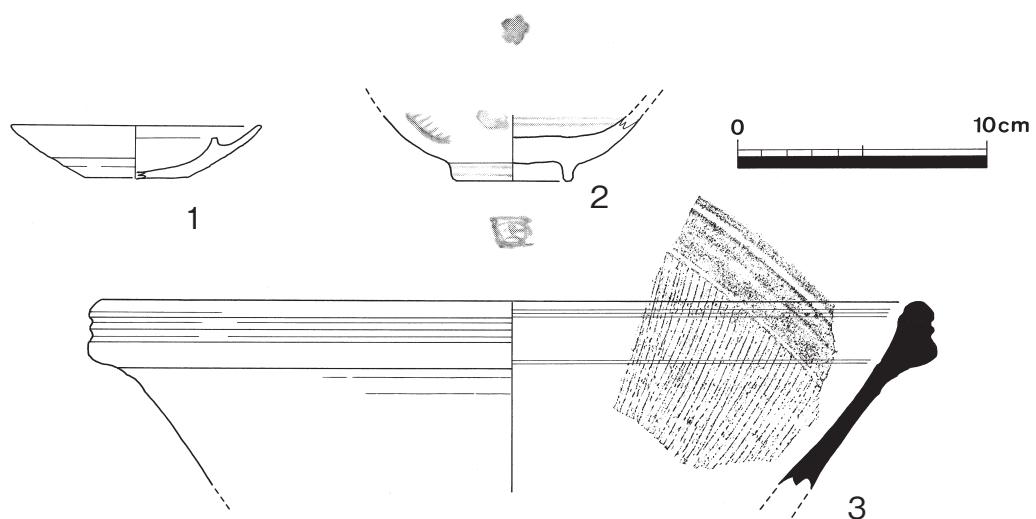
第9図 NKY11-01 2トレンチ平面図・土層断面図(1/40)

## 2. 遺物

1は陶器灯明受皿、2は肥前系磁器、3は擂鉢である。いずれも江戸時代18世紀後半から19世紀頃にかけての生活に関わる遺物である。

遺物観察表

	器種	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
1	陶器 灯明受皿	口径 10.0 器高 2.1	内面の環状の突帯の高さは低めである。	外面体部～底部にかけてヘラ削り調整。他はロクロナデ調整。外面口縁部～内面に釉を施す。(内面、環状の突帯先端部は露胎。)	胎土：密。焼成：良好。色調：淡灰緑色。残存：1/5。反転復元。2トレンチ出土
2	磁器 碗	残存高 2.6 高台径 4.6	中型碗	内面見込みは蛇の目釉 ハギで五弁花のコンニヤク印版あり。外面には染付、底部外面に記号様の銘か。高台設置面は露胎。	胎土：密。焼成：良好。色調：白色(透明釉)・染付：吳須。残存：1/4。反転復元。肥前系。2トレンチ出土。
3	陶器 擂鉢	口径 32.8 残存高 7.5	口縁部外面には段を有する。	内面の擦り目は放射状に全面に施されるようである。	胎土：密。2mm以下の長石含む。焼成：良好。色調：茶褐色。残存：1/8以下。反転復元。堺産か。1トレンチ出土。



第10図 NKY11-01 遺物実測図 (1/3)

## 2. NKY11-02 (平成 23 年 10 月 4 日)

2カ所のトレンチを設定した。

- ・ 1 トレンチ

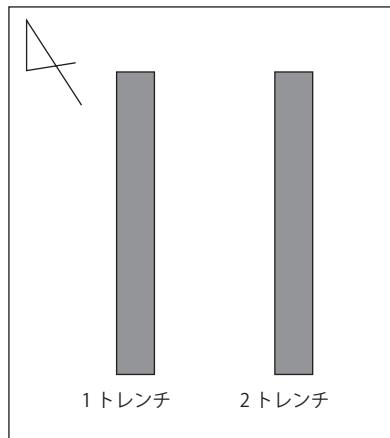
深さ 40cm を掘削したところ、地表下 30cm で黄褐色土の地山を確認したが、その上位は現代の整地層のみであった。

- ・ 2 トレンチ

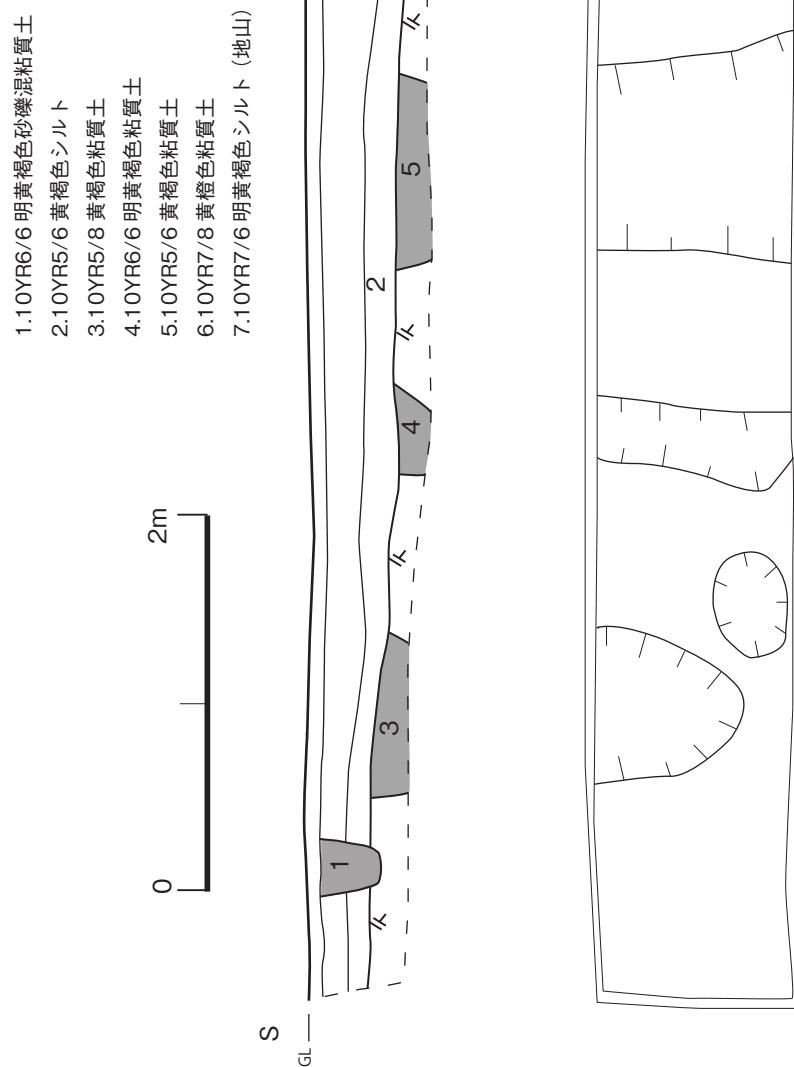
60cm を掘削した。地表下 20cm ~ 30cm に耕作土が残り、それを除去した地表下 45cm で地山を確認した。地山面上には溝状遺構、土坑などを検出し、遺構に含まれる遺物から近世に属する遺構と確認できた。



中高野街道（NKY11-01 前辺り）北西から



トレンチ配置図



第 11 図 NKY11-02 2 トレンチ平面図・土層断面図(1/40)

### 3. 陶邑窯跡群 SM11-01

#### 1. 調査概要（平成 23 年 10 月 17 日～24 日）

倉庫建築に伴い申請地内に 5 カ所のトレーナーを設定し、遺構等の有無確認を行ったところ、1 トレーナーで古墳時代の遺物が出土する溝を確認した。その後、溝の続きを把握するため、1 トレーナーを少し拡張させて確認調査を実施することとした。

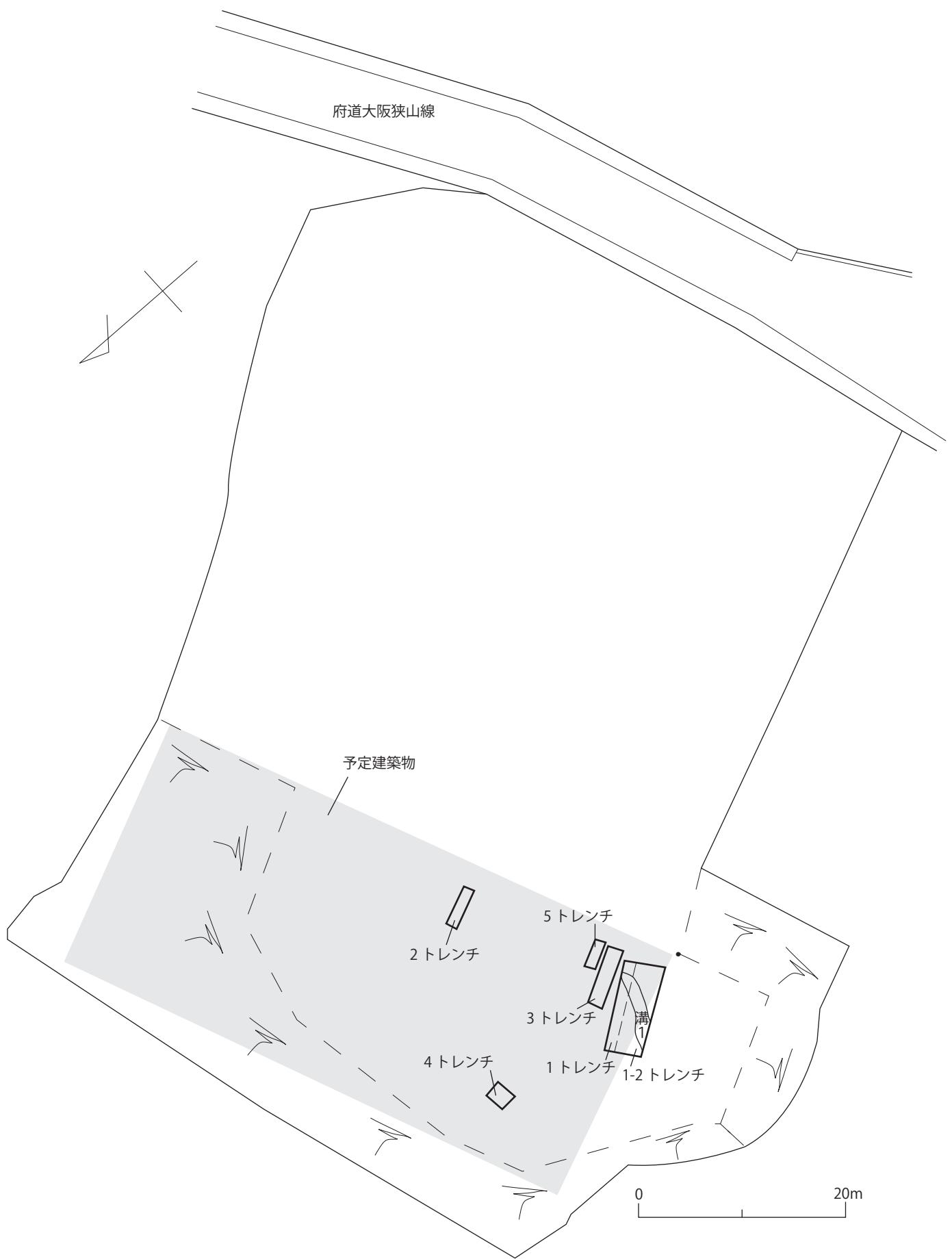
黄色粘土の地山をベースとして検出した溝は、幅 1.0m～1.4m、長さ約 6m 以上を測り、深さは検出面から約 0.7m である。溝は、斜面に沿って北西方向に流れるように掘られている。埋土からは 6 世紀後半代の須恵器・土師器等が出土した。また、明確には検出できなかったものの、トレーナー土層断面には時期の下るもう 1 条の溝状遺構が観察できた。

溝の埋土は、粘土混じりの褐色系粗砂から細砂である。断面形は逆台形状を呈し、北側の方が傾斜が緩い。溝底部からは完形の須恵器杯身が出土した。

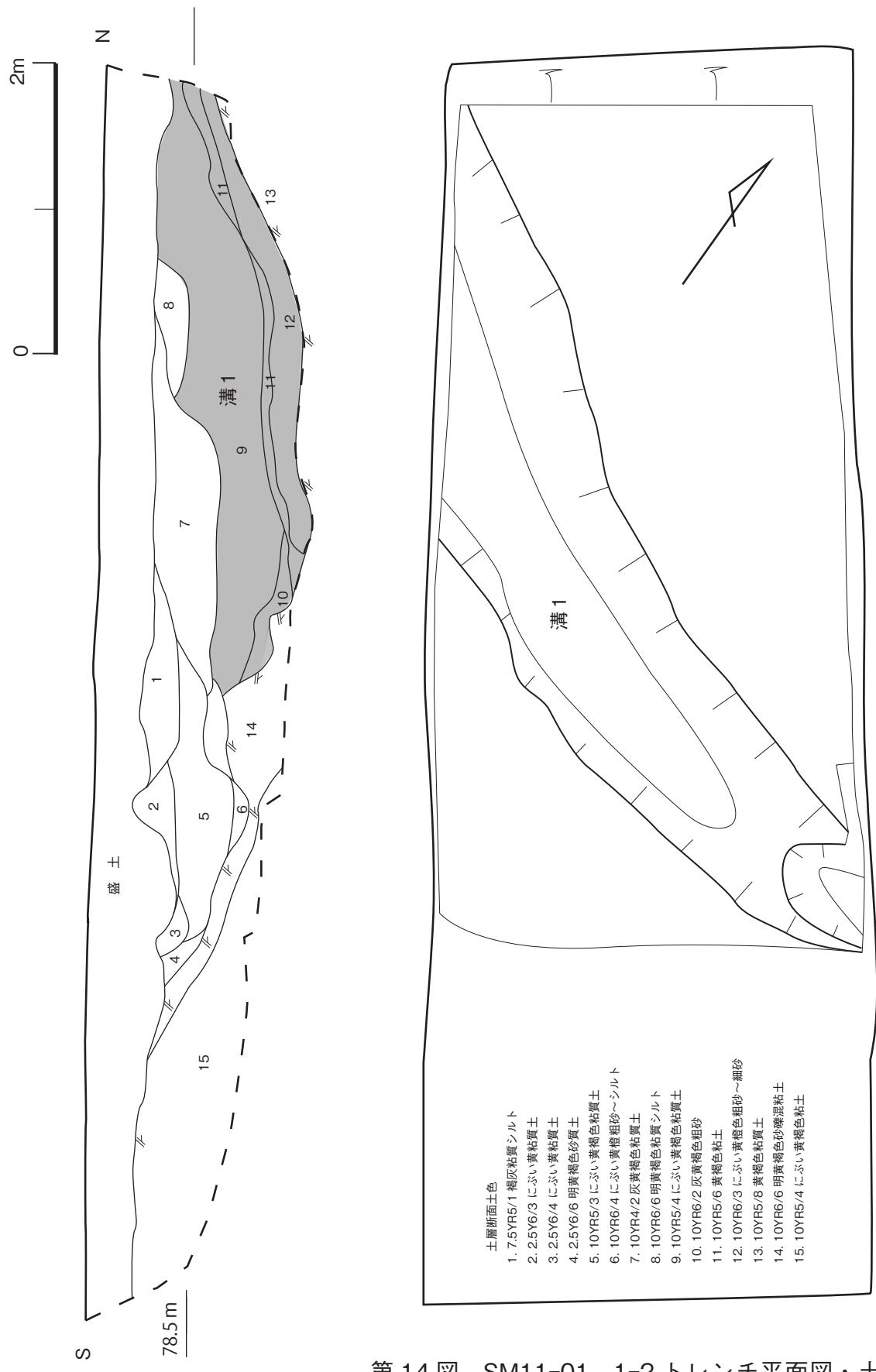
地形の状況や溝の方向などを踏まえてみると、斜面に沿って掘削された溝としての機能はどうなものなのか疑問点は多いが、それほど傾斜が急ではない水路的な性格を持ったものではあったのではないだろうかと考えている。



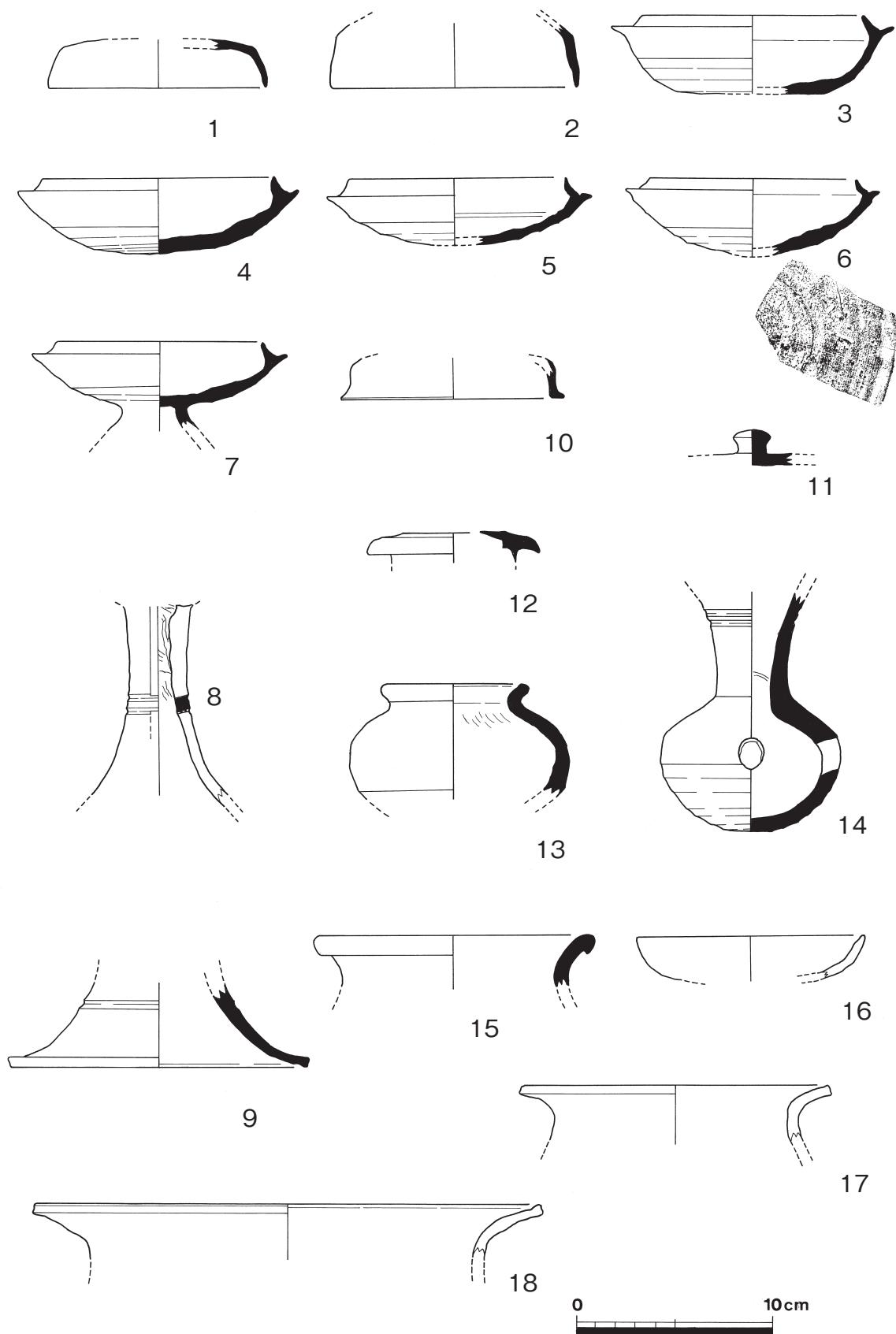
第 12 図 SM11-01 調査位置図 (1/5,000)



第13図 SM11-01 トレンチ位置図 (1/500)



第14図 SM11-01 1-2 トレンチ平面図・土層断面図  
(1/40)

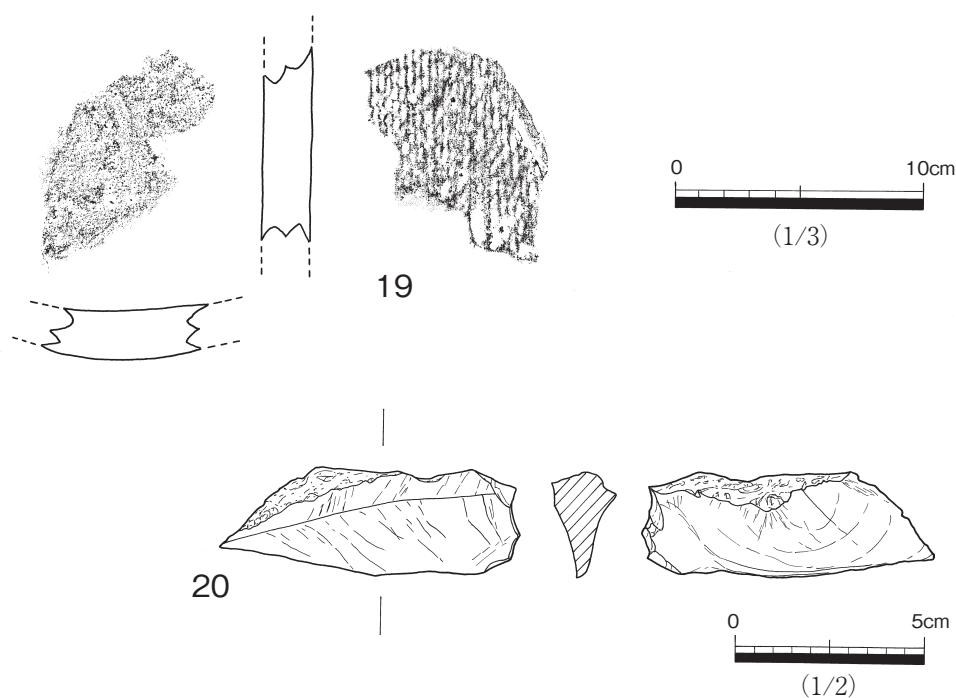


第 15 図 SM11-01 遺物実測図① (1/3)

## 2. 遺物

遺物は6世紀・7世紀代に属するものを主体とするが、土器類以外に平瓦片、石器が出土している。1～15は須恵器、16～18は土師器、19は平瓦、20はサヌカイト製の石器である。

4は溝の底近くから出土した須恵器杯身で、逆位で出土した。



第16図 SM11-01 遺物実測図②

遺物観察表

	器種	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
1	須恵器 杯蓋	口径 11.1 残存高 2.5	天井は平坦気味で口縁にかけてやや丸みを持ちながら下る。口縁端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ調整。	胎土：密。1mm以下のチャート、長石を僅かに含む。焼成：良好。色調：青灰色。残存：1/10以下。反転復元。
2	須恵器 杯蓋	口径 12.6 残存高 3.2	口縁部はやや外方に真っすぐ下る。端部は丸くおさめる。	内外面回転ナデ調整。	胎土：密。2mm以下の長石、チャート含む。焼成：良好。内外面灰かぶり。色調：灰色。残存：1/10以下。反転復元。
3	須恵器 杯身	口径 11.2 受部径 14.5 残存高 4.0	たちあがりは内傾し端部は丸い。受部はやや上方気味にのび、薄い。体部から底面は丸みを持ち、底部は平坦である。	底部外面回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	胎土：密。3mm以下の長石を若干含む。焼成：良好。色調：内外面とも青灰色。残存：1/4。反転復元。
4	須恵器 杯身	口径 10.8 受部径 8.8 残存高 1.6	たちあがりはやや外方に反り気味に上方にのびる。受部は体部から連続するようにのびる。全体的に比較的厚さがある。	底部外面回転ヘラ削り調整。内面見込み部はナデ、他は回転ナデ調整。	胎土：密。2mm以下の長石、黒色チャート若干含む。焼成：良好。色調：内外面青灰色。残存：完形。ロクロ回転：左方向。ひずみ有り。溝1の底から出土。
5	須恵器 杯身	口径 11.0 受部径 13.5 残存高 3.5	たちあがりは内傾しながら先端で直立する。受部は水平にのびる。	底部外面 2/3 回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	胎土：密。チャート含む。焼成：良好。内外面灰かぶり。色調：淡灰色。残存：1/2。反転復元。ロクロ回転：右方向。ひずみ有り。
6	須恵器 杯身	口径 10.4 受部径 13.0 残存高 3.9	たちあがりは内傾してのびる。受部は水平にのびる。	底部外面 2/3 回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	胎土：密。焼成：良好。色調：淡灰色。残存：1/4。反転復元。底部外面にヘラ記号有り。
7	須恵器 高杯	口径 10.5 受部径 13.0 残存高 4.5	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。脚部はおそらく短脚かと思われる。	底部外面回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	胎土：密。3mm以下の長石チャート含む。焼成：良好。色調：内外面青灰色。断面褐灰色。残存：1/5。反転復元。ロクロ回転：右方向。受部に若干自然釉付着。脚部内側に自然釉。
8	須恵器 高杯（脚部）	残存高 10.3	2段長脚の脚部。脚部外面中位に2条の沈線を有す。上下2段2方向に長方形のスカシをあける。	脚部内面に左方向のしづり目有り。回転ナデ調整。	胎土：密。3mm以下のチャート、長石含む。焼成：良好。色調：青灰色。残存：1/2以下。反転復元。
9	須恵器 高杯（脚底部）	脚底径 15.0 残存高 4.3	長脚の高杯裙部であろう。裙部はラッパ状に外反し下方へのびる。1条の沈線をめぐらす。底部外端面は平面をなす。	内外面回転ナデ調整。	胎土：密。3mm以下の長石、チャート含む。焼成：良好。色調：灰色。残存：1/8。反転復元。
10	須恵器 蓋	口径 11.4 残存高 2.1	口縁へはまっすぐに下り、端部で直角に屈曲する。	内外面回転ナデ調整。	胎土：密。2mm以下の長石チャート含む。焼成：良好。口縁端部内側に僅かに自然釉付着。色調：内外面とも青灰色。残存：1/10以下。反転復元。
11	須恵器 蓋（つまみ）	残存高 1.9	小さめのつまみである。根本から先端に向けては直立し、頭部で少し膨らむ。	外面回転ナデ調整。内面一方向ナデ調整。	胎土：密。焼成：良好。色調：淡灰色。残存：1/10以下。反転復元。
12	須恵器 蓋	口径 6.2 残存高 1.6	壺の天井部は平坦で、端部へは斜め下方におさめる。頸部以下は欠損するが、壺の蓋と思われる。	天井部 2/3 回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	胎土：密。2mm以下の長石、チャート含む。焼成：良好。色調：淡灰色。残存：1/8以下。反転復元。
13	須恵器 短頸壺	口径 6.9 残存高 5.7	頸部から口縁部は外反し、端部は丸い。体部は最大径を中位に持ち丸く膨らむ。	内外面とも回転ナデ調整。頸部内面にしづり目有り。	胎土：密。4mm以下のチャート、長石含む。焼成：良好。色調：灰色。残存：1/3。反転復元。
14	須恵器 はそう	残存高 12.1 体部最大径 9.2	頸部から口縁部にかけて緩く外反しながら上方にのびる。頸部に2条の沈線を持つ。肩部は平坦気味に下がり、体部で丸みを持ち、中ほどに1カ所円孔を穿つ。	外面底部はヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。頸部内面下位にしづり目有り。	胎土：密。長石、チャート含む。焼成：良好。内外面灰かぶり。色調：淡灰色。残存：2/3。ロクロ回転：右方向。
15	須恵器 甕	口径 14.0 残存高 2.7	頸部から口縁部へは外反しながらのび端部で折り曲げるような形状をする。	内外面回転ナデ調整。	胎土：密。チャート含む。焼成：良好。色調：淡灰色。残存：1/10以下。反転復元。
16	土師器 皿	口径 11.6 残存高 2.3	体部・口縁部は緩く外上方にのびる。端部内面に僅かに段を持つ。	摩耗のため調整不明。	胎土：密。0.1mm以下の砂粒僅かに有り。焼成：良。色調：淡褐色。残存：1/10以下。反転復元。外面に煤の跡あり。
17	土師器 甕	口径 15.4 残存高 2.8	頸部から口縁部へは屈曲しながらのびる。口縁端部は面を持つ。	摩耗のため調整不明。	胎土：やや粗。焼成：良好。色調：赤褐色。残存：1/10以下。反転復元。
18	土師器 甕（口縁部）	口径 25.6 残存高 2.7	口縁部へは水平気味に外方にのびる。口縁端部は面を持つ。	摩耗のため調整不明。	胎土：密。1mm以下の白色砂粒含む。焼成：良好。色調：内外面灰褐色。断面褐灰色。残存：1/10以下。反転復元。
19	平瓦	縦 7.8 横 7.0	端面は残存しない。	凸面は縄目タタキ、凹面は磨滅のため不明。	胎土：密。1mm以下の白色砂粒含む。焼成：良好。色調：内外面灰褐色。断面褐灰色。残存：1/10以下。
20	石器	縦 2.6 横 7.9	自然面を残し刃部は鋭さを持つ。断面は逆三角形を呈する。	横長の剥片。刃部に稲打などはみられない。	サヌカイト製。灰色を呈する。

#### 4. 試掘調査 111226 区

##### 調査概要（平成 23 年 12 月 26 日・27 日）

公衆浴場建設に伴い実施した遺跡外における試掘調査である。

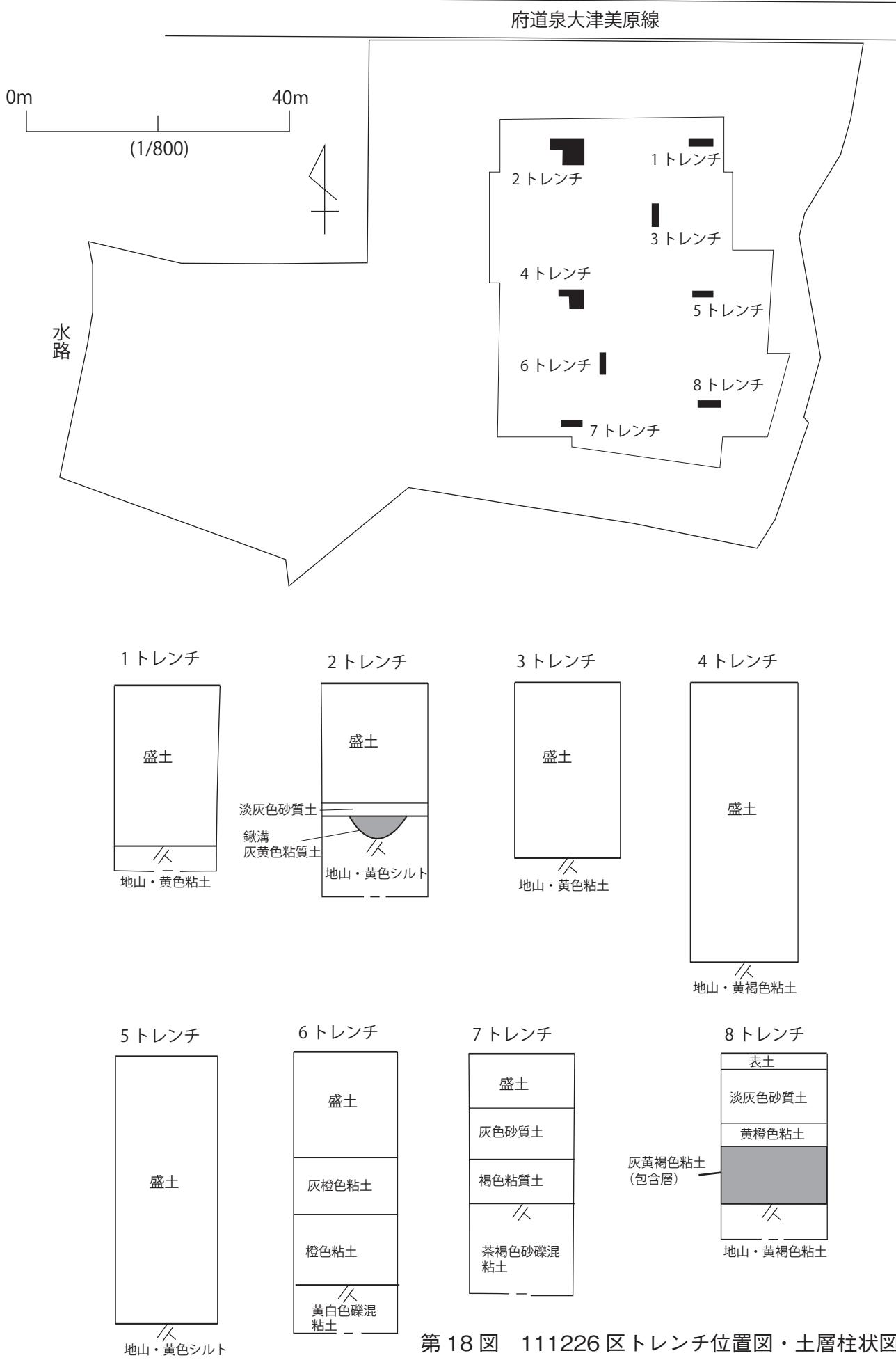
調査地周辺の現況は、狭山池中樋筋用水の水路を挟んで両側に田畠がひろがっている。

申請地内に 8 カ所のトレンチを設定し、遺構等の有無確認を行ったところ、2 トレンチで地表下約 50cm の地山をベースとした鍬溝を検出した。鍬溝は平行する 3 本が確認でき、北北東—南南西を指向する。溝の幅は 20cm ~ 40cm、深さ 10cm を測る。溝の間隔は芯間で 1.1m でほぼ等しい。溝の埋土からは中世の時期のものと思われる極細片の須恵器・土師器が若干数出土した。また、8 トレンチでは地表下 40cm で厚さ 20cm の灰黄褐色粘土層から土師器・須恵器・瓦器の細片が少量出土した。中世の遺物包含層と認められる。

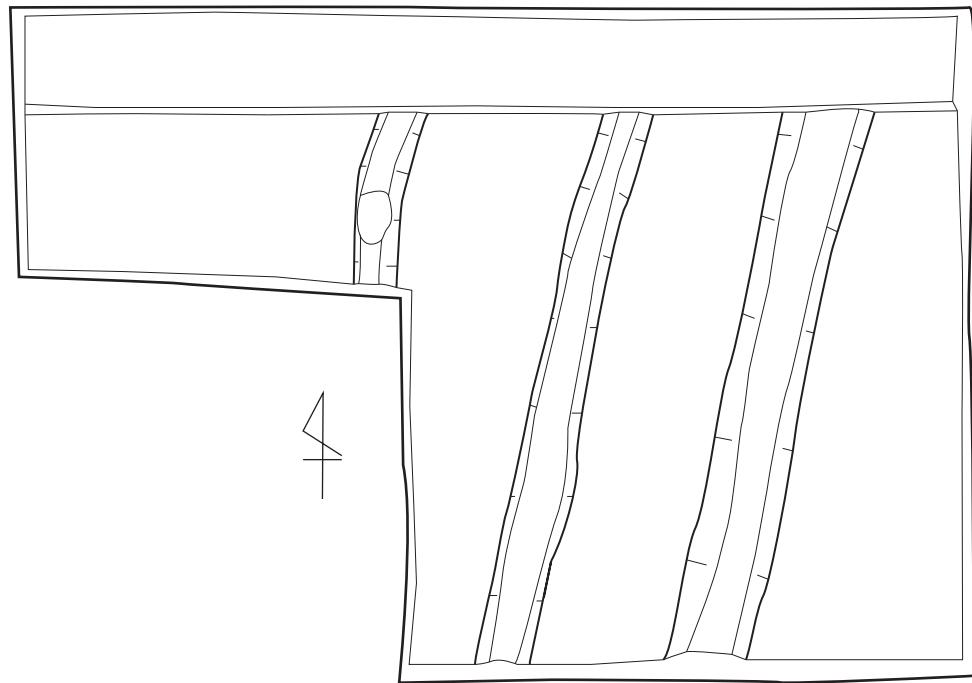
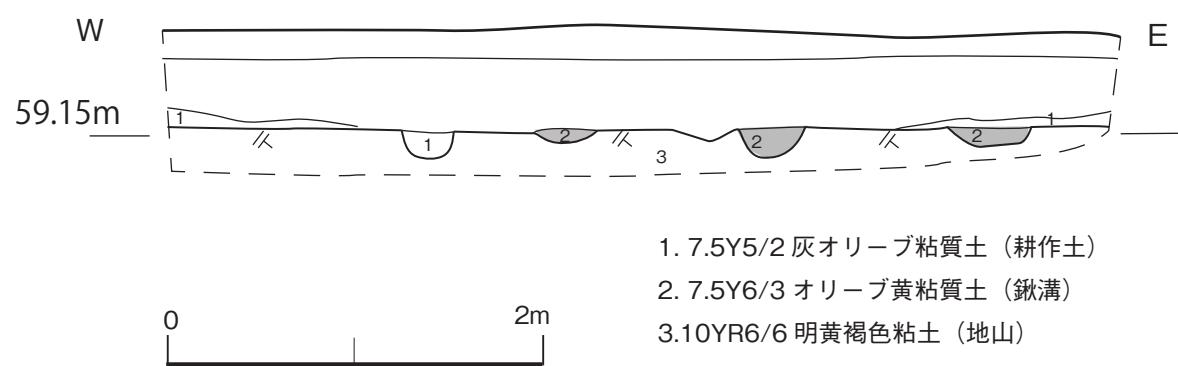
前身の工場建物により残存状況は良好ではなかったが、中世期の耕作の一端が確認された。



第 17 図 111226 区調査位置図(1/5000)



第 18 図 111226 区トレンチ位置図・土層柱状図



第19図 111226区2 トレンチ平面図(下)・土層断面図(上)(1/40)

## 5. 陶邑窯跡群 陶器山 309・310 号窯 (MT309・MT310)

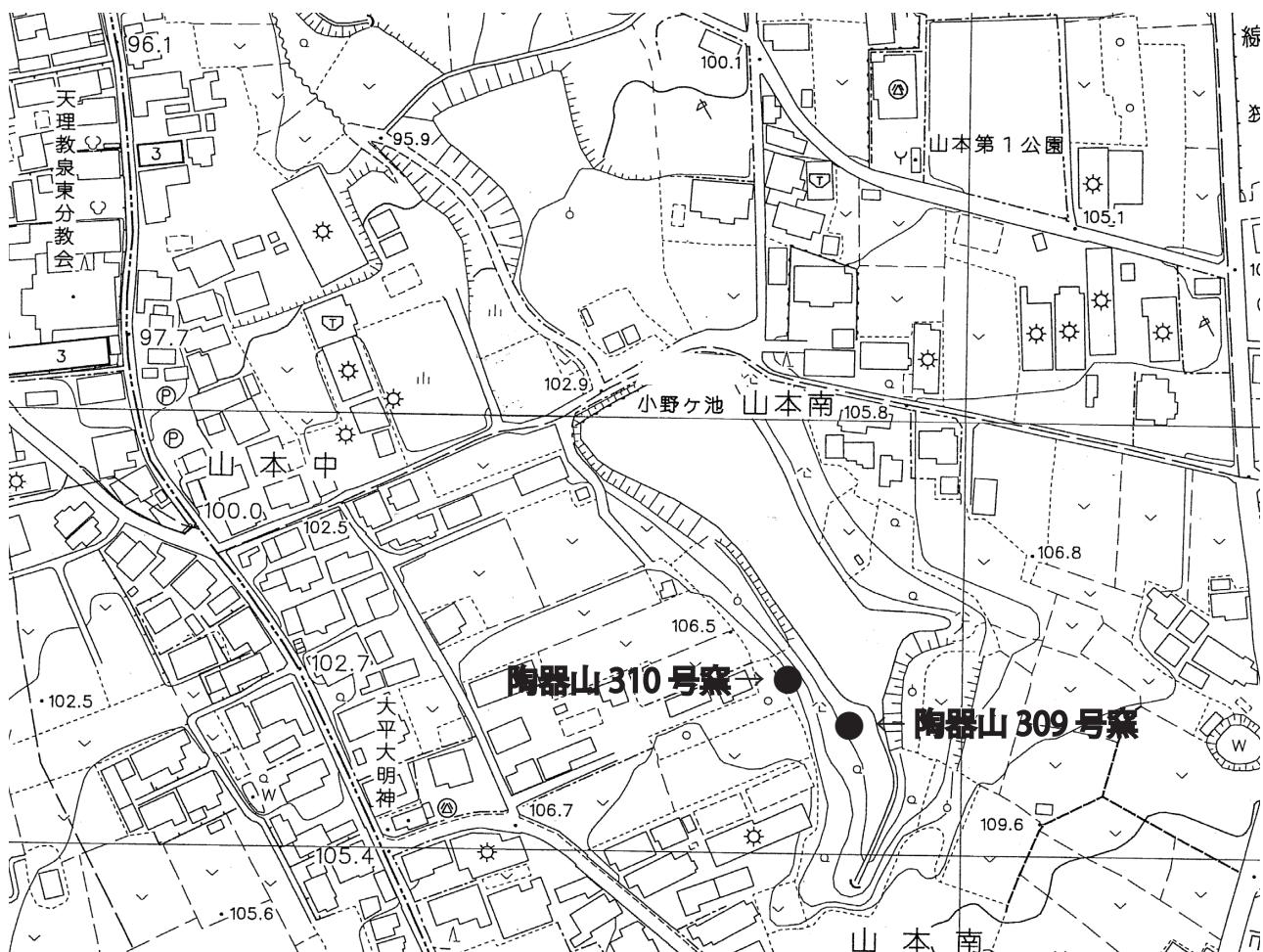
調査概要（平成 23 年 11 月 28・29 日、平成 24 年 1 月 10 日～2 月 26 日）

山本南に位置する陶器山 309 号窯・310 号窯は、平成 24 年 1 月から 2 月にかけて実施した小野ヶ池埋め立てに伴う確認調査で新規に発見した窯である。309 号窯は 6 世紀から 7 世紀にかけて、310 号窯は 7 世紀中頃に操業された窯と判明し、とりわけ 310 号窯は陶邑窯跡群で初めて確認した 7 世紀代の瓦陶兼業窯である。

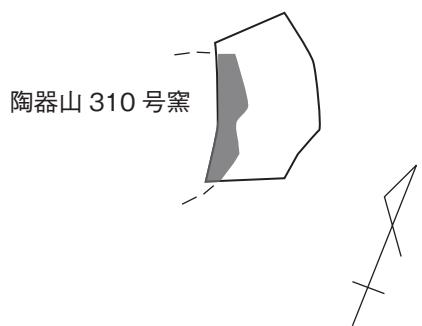
小野ヶ池南方の北東斜面裾に幅 2m、長さ約 20m に設定したトレンチから、6 世紀初めから 7 世紀前半の 1 基以上の須恵器窯の灰原（309 号窯）及び、7 世紀中頃の瓦陶兼業窯の灰原（310 号窯）を確認し、さらにその北東約 10m の位置に 310 号窯の焚口部を検出するに至った。

また出土した遺物は、309 号窯・310 号窯あわせて整理用コンテナに 120 箱分を数え、その種類には須恵器、瓦、壇がある。特に瓦は約 3 分の 1 にあたる約 40 箱分を占める約 250 点の平瓦であった。壇は、灰原からは見つかっていない。

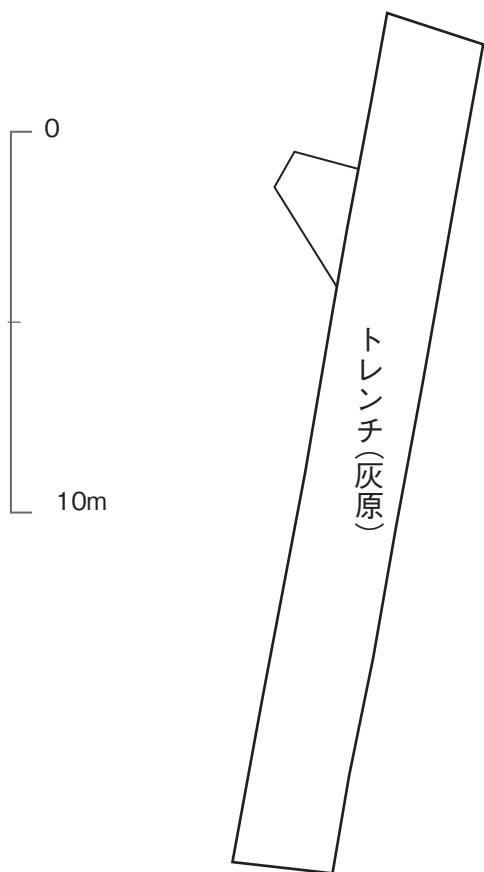
現在、310 号窯の持つ重要性を鑑みつつ遺物整理等を進めており、平成 25 年度の発掘調査概要報告書に掲載する予定である。



第 20 図 陶器山 309・310 号窯の位置 (1/2500)



陶器山 310 号窯の近景（北から）



第 21 図 陶器山 309・310 号窯の調査トレンチと 310 号窯の位置 (1/200)

## 平成 23 年度調査 小結

半田城跡（HDJ11-01・-02）の調査では、遺構については不明な部分が多くはあったが、7世紀後半代の遺物がまとまって出土したことや、その上層に中世の遺物包含層が堆積することを確認できたことなど予想外の成果が得られた。狭山池南方の比較的安定した段丘上にある半田城跡について、古代から中世にかけて近年新たに発見された半田北遺跡や東野中遺跡など、狭山神社から菅生神社にかけての中高野沿いに集落が点在していたことが想定される。

陶邑窯跡群（SM11-01）の調査では、須恵器窯に関わる遺構ではなかったが、現在の西除川に沿うようにした溝状遺構から6世紀から7世紀にかけての須恵器・土師器が出土した。出土した遺物がややまとまりに欠けるように思われることや、窯跡資料ではないところをみると、斜面上方の現在国道310号線が通る南西地域から転落してきた遺物ではないかと考え、そうした場合、想像の域は越えないが上方に集落などがあったことも想定することができようか。

その他、遺跡外の範囲調査も比較的多かった年度であったが、本書に掲載した111226区の試掘調査では、前身の建物による損壊が著しかったものの、中世期の鍬溝と磨滅した須恵器・土師器片等の細片が若干出土した。遺構としては鍬溝は珍しいものではないかとも思うが、当該地は中世には大覚寺領の莊園野田庄の区域に含まれることを考えると、鍬溝といえども今後の成果につながる発見であったのではないかと考えたい。

陶器山309・310号窯は、平成23年度に現地調査を実施した。平成25年度にその成果をまとめ概要報告書に掲載する予定である。

本書に掲載した以外にも狭山藩陣屋跡などの調査も実施したが、盛土内におさまるなど遺構等に影響なく工事着工の措置をとったケースがいくつかあった。

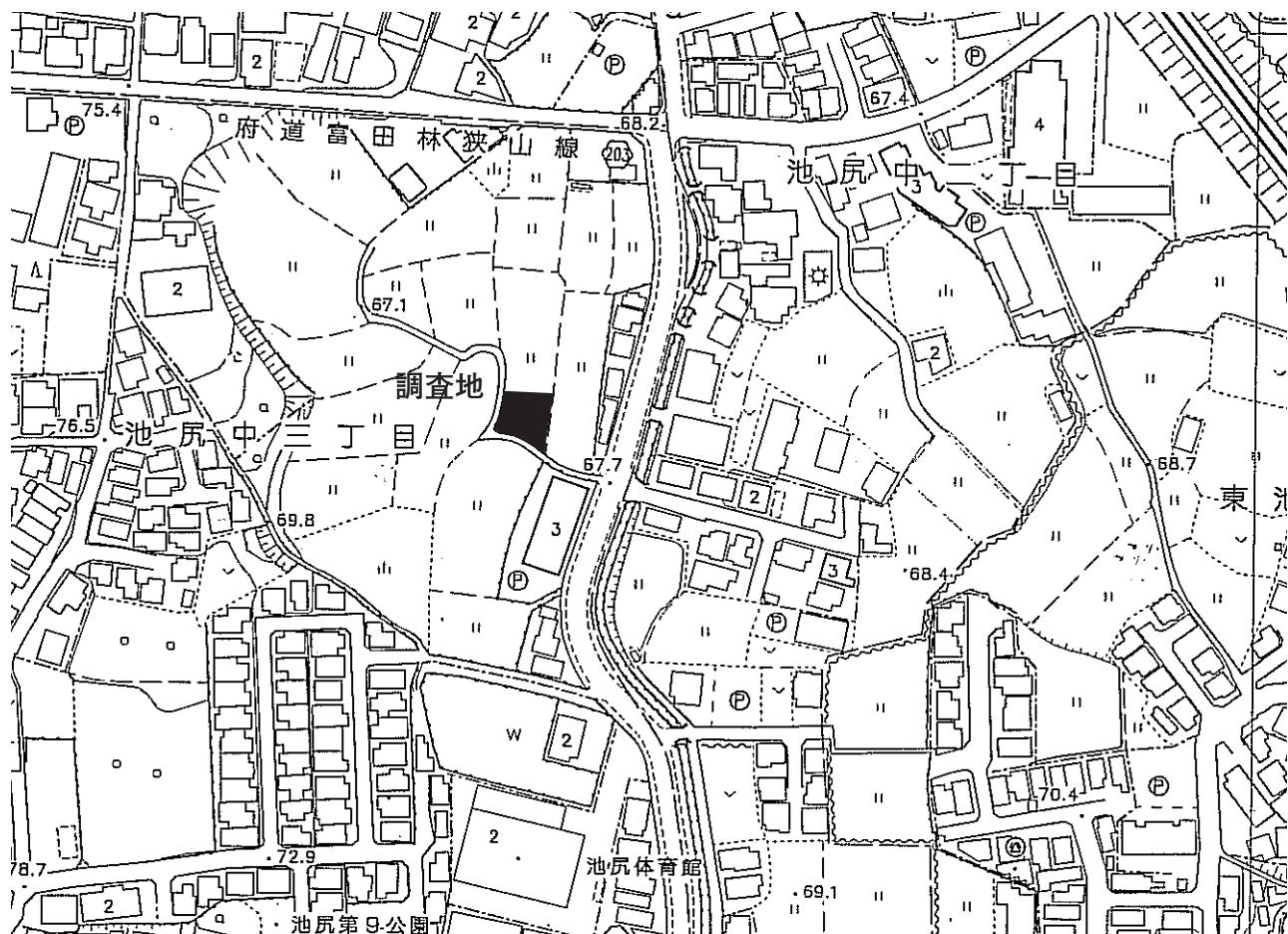
平成24年度

## 2. 池尻遺跡 IJ12-01

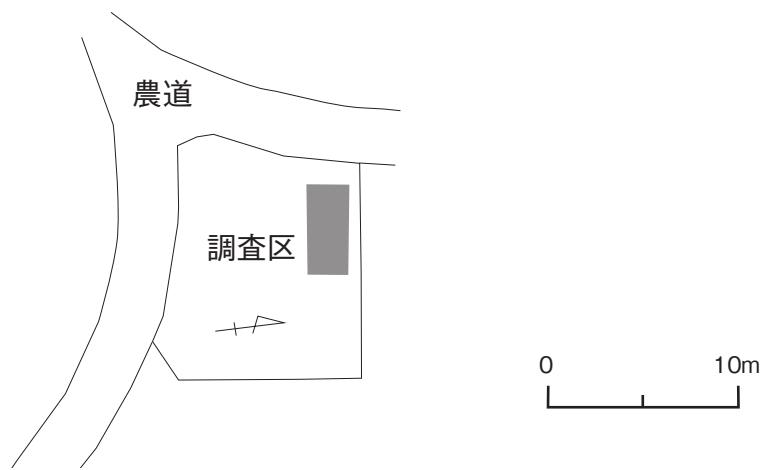
### 1. 調査概要（平成24年9月21日～9月26日）

当該地は、1992年及び2012年の発掘調査によって中世の集落跡が良好な状態で見つかっている区域に隣接している。

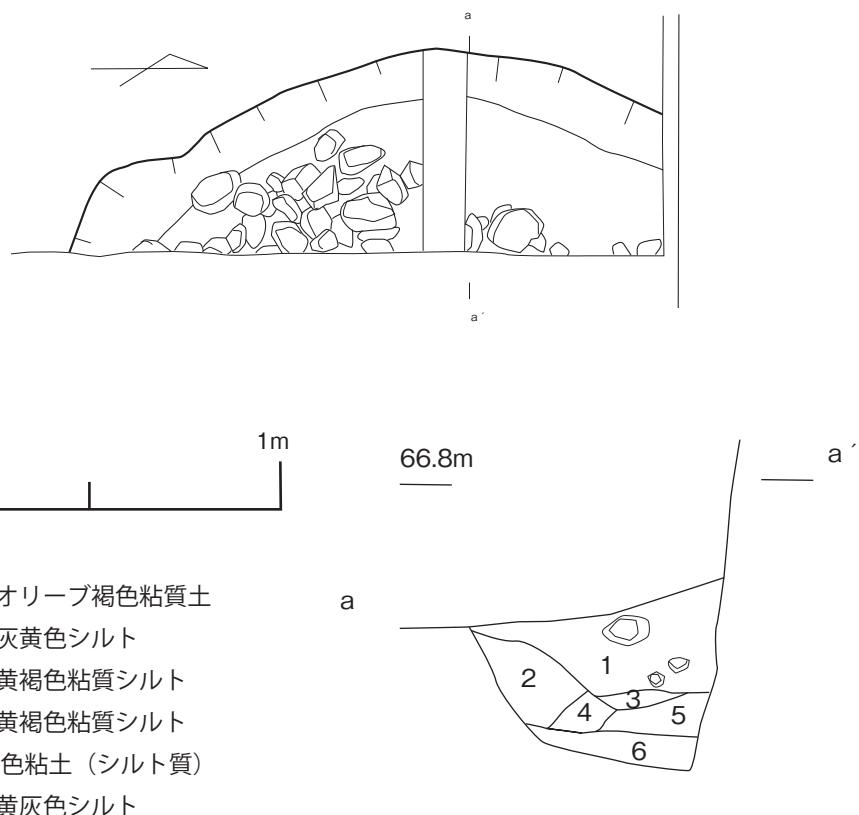
個人住宅の建築に伴い発掘調査を行った。調査区は申請地の北西部分の約10m<sup>2</sup>を調査対象とした。検出した遺構は、現地表下1.5mの標高66.4mの地山をベースとして50cm程度の土坑数基と幅0.5m以上、長さ1.5m以上の集石を伴う中世前半の土坑1基（土坑1）を確認した。遺構検出面の上層には中世の遺物包含層も認められた。また、時期などは明確にはできなかつたが、調査区の西半には水田状の痕跡と思われる地山の変化が観察できた。



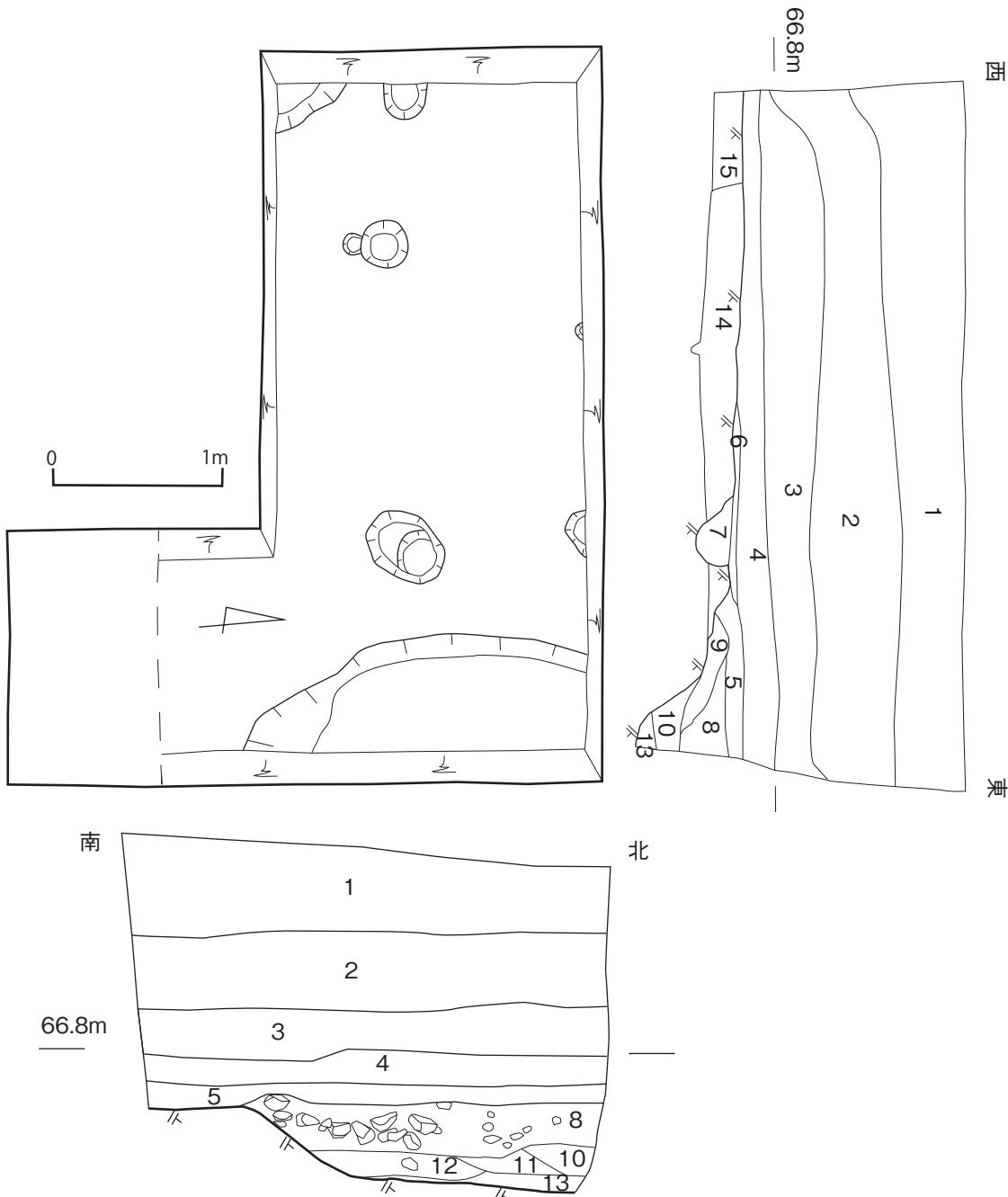
第22図 IJ12-01 調査位置図(1/2500)



第23図 IJ12-01 調査区の位置 (1/400)

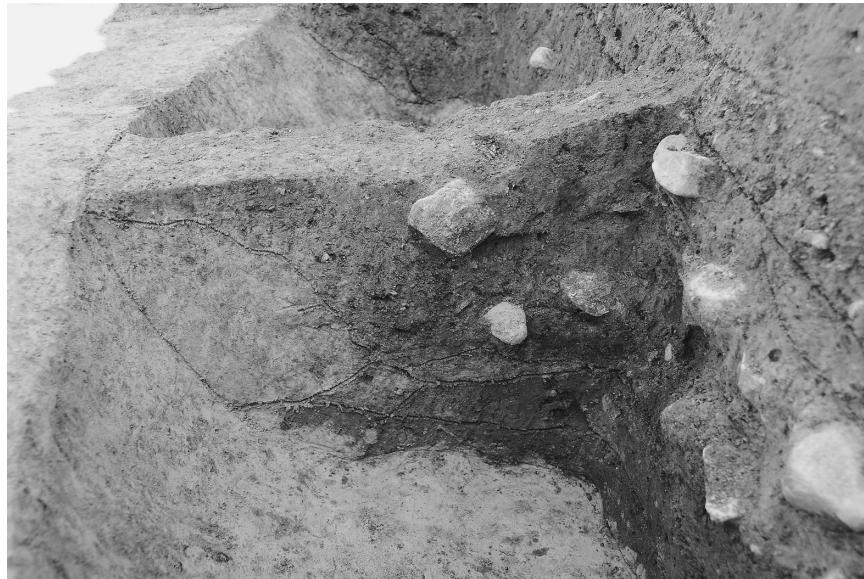


第24図 IJ12-01 土坑1 集石遺構平面図 (上)・断面図 (下) (1/20)



- 1. 2.5Y5/4 黄褐色礫混じり砂質土
- 2. 2.5Y6/6 明黄褐色礫混じり砂質土
- 3. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土
- 4. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土
- 6. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土 (マンガン粒混)
- 7. 2.5Y5/3 黄褐色シルト質粘土 (マンガン粒混)
- 5. 7.5YR5/3 にぶい褐色粘質土
- 8. 7.5YR5/6 明褐色粘質土
- 9. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/6 黄褐色のブロック混)
- 10. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト
- 11. 7.5YR6/2 灰オリーブ色シルト
- 12. 7.5YR4/1 灰色粘質シルト (炭・土器含む)
- 13. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト
- 14. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (マンガン沈着多)
- 15. 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト (マンガン沈着あり)

第25図 IJ12-01 遺構配置図・土層断面図  
(1/40)



土坑 1 あぜ断面（南から）

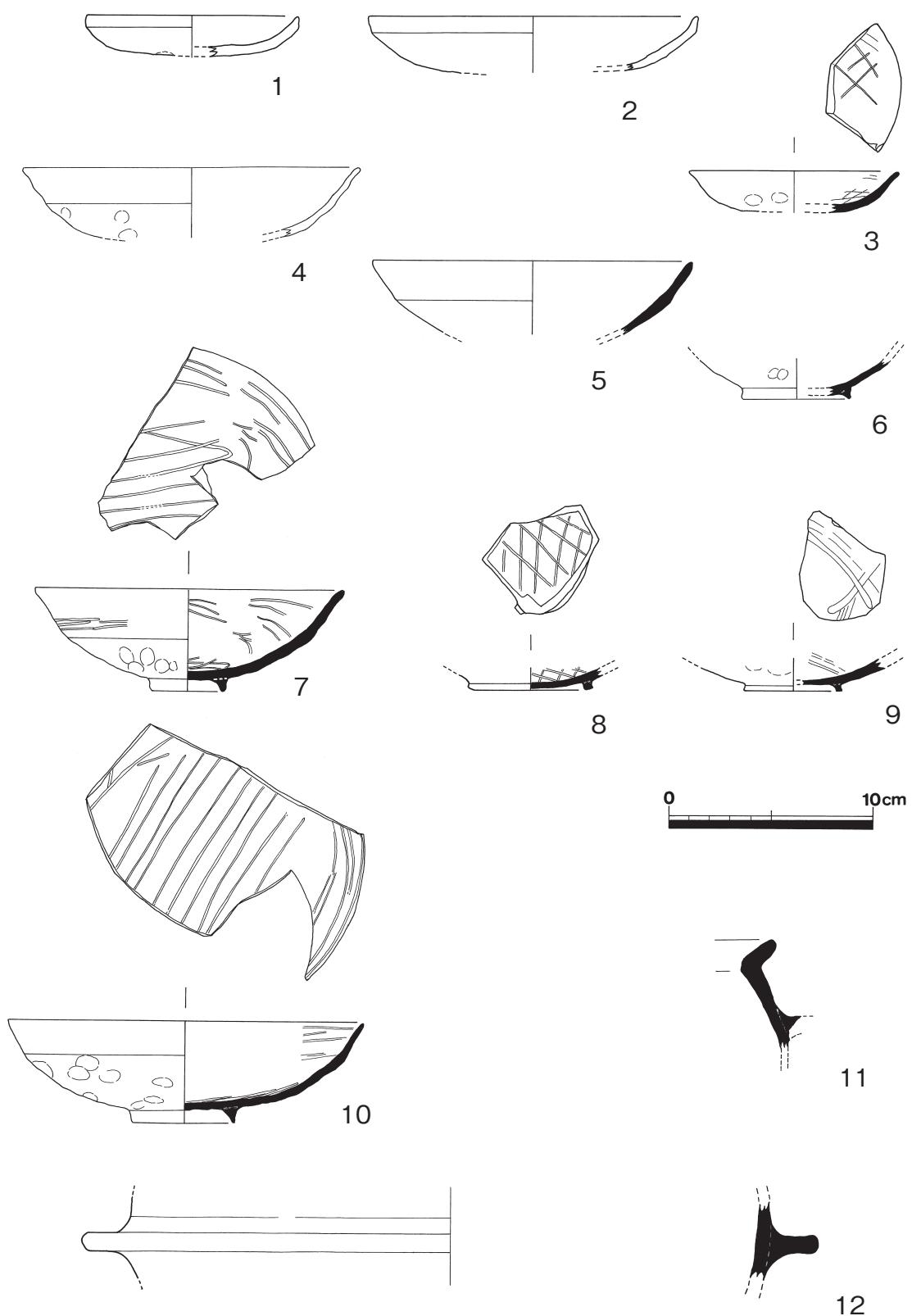
## 2. 土坑 1 (集石遺構)

遺構の形は、橢円形を呈し深さ約 40cm を測る。埋土は灰色系のシルト層でここから径 10cm ~ 20cm 大の礫と瓦器椀・土師質羽釜・土師器などの遺物が出土した。また、図化は行えなかったが、青磁の小片も出土している（図版 15 - 13）。なお、2012 年に実施した隣接地での調査でも同様な集石を伴う遺構が見つかっている。

出土した遺物の年代は、12 世紀後半から 13 世紀初めに相当すると考えられる。

## 3. 遺物

1・2・4 は土師器、3・5・6・7・8・9・10 は瓦器、11・12 は土師質の羽釜である。瓦器椀には、内面見込みに平行線状あるいは格子状の暗文を持つものがあったり、高台については断面が四角形に近い古い要素を持つものと、退化しつつある三角形の断面を持つものが一括して出土する。



第26図 IJ12-01 遺物実測図(1/ 3)

## 遺物観察表

	器種	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
1	土師器 小皿	口径 10.2 残存高 2.0	底面は平坦。体部は外上方に向かって緩やかにのび、口縁端部は内傾する。	磨滅するがヨコナデによる調整とみえる。底部外面に指頭圧痕あり。	胎土:密。焼成:良好。色調:灰白色。残存:1/4以下。反転復元。
2	土師器 皿	口径 16.0 残存高 2.7	体部は外上方にのび、口縁端部でやや内側に屈曲し端部外面に面を持つ。	外内面ともヨコナデ調整。	胎土:密。僅かにチャートを含む。焼成:良好。色調:灰白色。残存:1/8。反転復元。
3	瓦器 小皿	口径 10.2 残存高 2.0	体部は外上方にむかって緩やかにのび、口縁部でやや外反する。端部は丸い。	底部外面に指押さえ痕。内面見込みには斜格子状暗文あり。体部から口縁部にかけてヨコナデ調整。	胎土:密。焼成:良好。色調:灰白色。残存:1/6以下。反転復元。
4	土師器 椀	口径 16.6 残存高 3.4	体部から口縁部にかけて緩やかに外上方にのびる。端部は丸い。	口縁部外面はヨコナデ、体部は指おさえで仕上げる。内面は丁寧にナデている。	胎土:2mm以下の長石・石英を若干含む。焼成:良好。色調:橙色。残存:1/10以下。反転復元。
5	瓦器 椀	口径 15.4 残存高 3.6	体部は外上方にのびる。	口縁部外面はヨコナデ調整。体部はナデ調整。内面は磨滅のため不明。	胎土:密。チャート含む。焼成:良好。色調:灰白色。残存:1/8以下。反転復元。
6	瓦器 椀	高台径 5.2 残存高 1.9	体部は外上方にのびる。高台は断面三角形を呈する。	体部外面指押さえ。内面ナデ調整。高台を張り付けた後、ヨコナデで仕上げる。	胎土:0.1mmの砂粒含む。焼成:やや不良。色調:灰白色。残存:1/10以下。反転復元。
7	瓦器 椀	口径 15.2 器高 4.9 高台径 3.6	高台は比較的厚みがあり、しっかりとされている。体部から口縁部にかけては緩やかに外上方にのび、端部でやや外反し丸くおさめる。	高台の内側は粗い指おさえ、体部外面も指おさえ、口縁部外面にはヨコナデを施した後、横方向の暗文がみえる。内面はヨコナデ、見込みには平行線状の暗文を施し、口縁部内面にも環状の暗文を施す。	胎土:3mm以下の砂粒含む。焼成:良好。色調:内外面、灰色。断面、灰白色。残存:1/6以下。反転復元。
8	瓦器 椀	高台径 5.5 残存高 1.1	高台の形状は四角形であり、しっかりとしている。器の底がかなり低く設置面にすりそなぐらいである。	外面は所々にナデ調整。内面見込みに斜格子状暗文を施す。	胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。色調:外面、灰色。内面、灰白色。残存:1/5。反転復元。
9	瓦器 椀	高台径 4.8 残存高 2.1	高台は四角い。やや外に向かって踏ん張る。	外面は指押さえ。内面見込みには暗文がみられる。	胎土:密。チャートを含む。焼成:良好。色調:灰色。残存:1/10以下。反転復元。
10	瓦器 椀	口径 17.3 高台径 5.0 残存高 5.0	完全ではないが口縁部から高台まで残る。器に比較して高台が小さくバランスが良くない。高台の形状は三角形	体部と底部外面は指押さえ。口縁部外面はヨコ方向にみがくようにもみえる。内面には暗文を施す。平行線状で残存良好である。口縁付近にも環状に暗文あり。	胎土:密。焼成:良好。色調:内外面、灰色。断面、灰白色。残存:2/3。反転復元。
11	土師質 羽釜	残存高 5.3	口縁部にかけて外側に屈曲する。端部は丸い。鍔は欠損する。	外面はナデ調整、内面は磨滅のため不明。	胎土:3mm以下の白色砂粒含む。焼成:良好。色調:橙色。残存:1/10以下。反転復元不可。
12	土師質 羽釜	鍔部径 43.3	鍔部はやや上方にのびる。先端は丸くおさめる。	外面、ナデ調整。内面は調整不明。	胎土:2mm以下の砂礫含む。焼成:良好。色調:橙色。残存:1/10以下。反転復元。

### 3. 陶邑窯跡群 SM12－01 陶器山 42 号 (MT42)

#### 1. 調査概要（平成 24 年 10 月 16 日）

個人住宅に伴う発掘調査である。調査地は陶器山 42 号窯の東へ 20m 下方にある。調査に入る前に、申請地南側で須恵器片が多く採取された。これまでにも近辺における調査で、二次的に堆積した盛土中などから須恵器が出土する例があったり、今回の調査地の立地をみても陶器山 42 号窯に関する遺構あるいは遺物が見つかる可能性が十分考えられた。

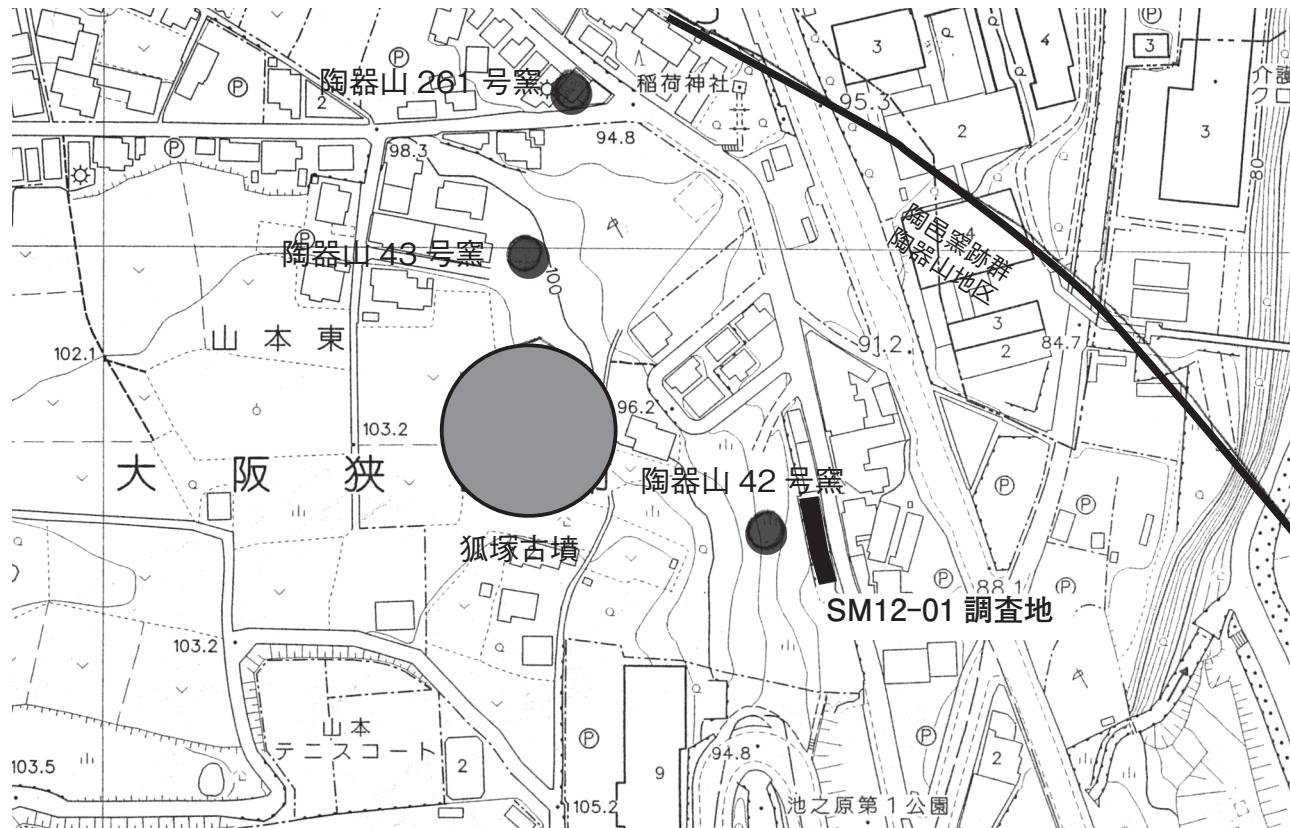
申請地内にトレンチを 2 カ所設定した。1 トレンチは北西側に南北方向に、2 トレンチは南西側に L 字形に設定した。

#### 1 トレンチ

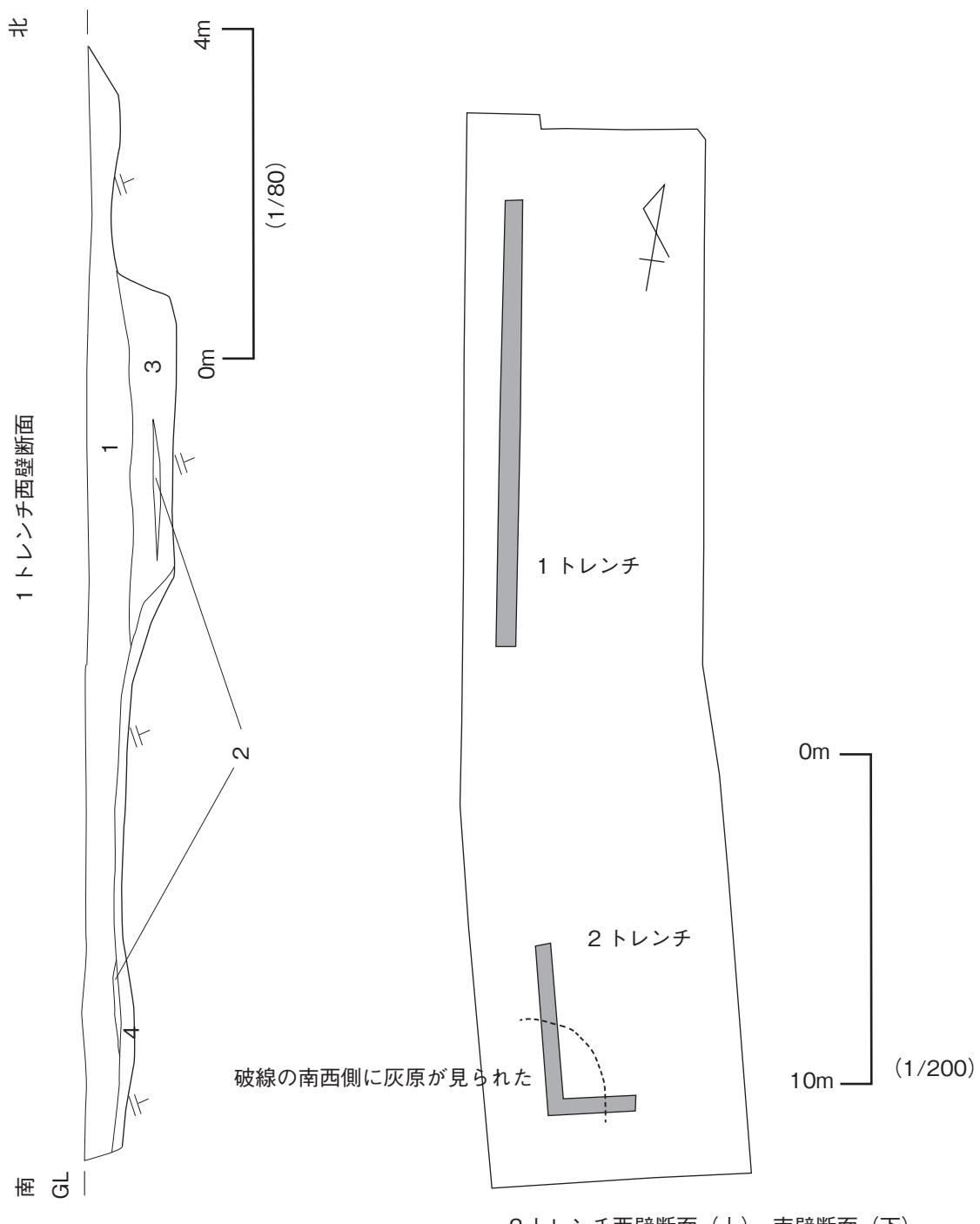
幅 0.6m、長さ 13.5m を掘削した結果、浅い部分で 20cm、深い部分で 110cm で地山が確認された。北から約 3～7m 間で溝状の落ち込みがみられた。落ち込みには現代の遺物が含まれていたが、ともすれば近世から続く溝状のようなものであるかもしれない。

#### 2 トレンチ

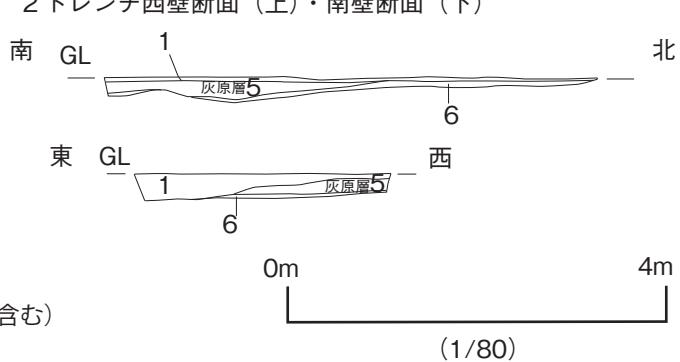
現地表下 10cm 未満で須恵器・焼土を含む黒灰層が地山直上で検出された。その範囲は、申請地の南西隅から約 5m の範囲内に広がっていた。黒灰層は、陶器山 42 号窯の灰原の一部が



第27図 SM12-01 調査位置図(1/2500)



1. 現代盛土
2. 灰色粘土 (現代遺物あり)
3. 暗褐色粘質土 (現代遺物あり)
4. 褐色粘質土
5. 赤褐色粘質土・黒色土 (灰・焼土・須恵器を多く含む)
6. 黄白色粘土 (地山)



第28図 SM12-01 トレンチ位置図・土層断面図 (1/200)・1/80)

僅かに残ったものであろう。すなわち原位置を留めた灰原であることが確認できた。

陶器山42号窯については、その位置を含めて不明なことが多いが、概ねその操業年代は6世紀前後に相当すると考えられ、位置についてもこの斜面上方にあろうことがはっきりしてきた。

## 2. 遺物

1～5は杯蓋、6～10は杯身、11は壺、12は高杯の脚部、13は甕の口縁部である。  
完形のものはないが磨滅はしていない。

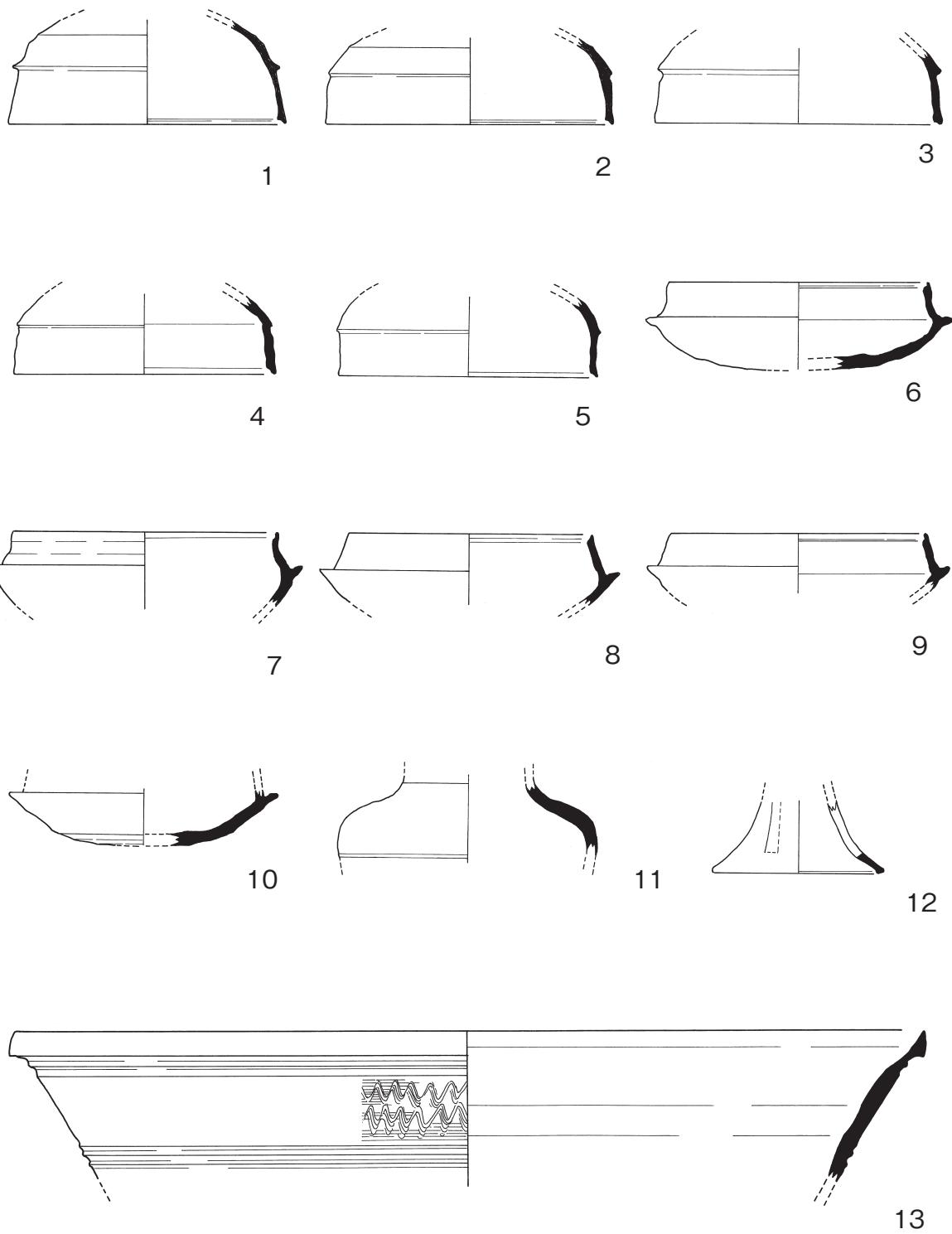
杯蓋は口縁部と天井部の境に断を有する。また口縁端部内面にも段を持つ。杯身は口縁端部に段を持つ。



1 トレンチ溝状落ち込み（北から）



2 トレンチ灰原（須恵器・灰層出土状況）



第29図 SM12-01 遺物実測図(1/3)

遺物観察表

	器種	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
1	須恵器 杯蓋	口径 13.3 残存高 5.0	天井部と口縁部の境の稜は突帯状に明瞭である。口縁部にかけては外方に下り、端部内面に段を持つ。	天井部外面 3/4 を回転ヘラ削り。他は回転ナデ調整。	胎土：密。1mm 以下の長石・チャート含む。焼成：良好。色調：灰色。残存：反転復元。
2	須恵器 杯蓋	口径 14.0 残存高 4.0	天井部から口縁部へは丸く下り端部へはまっすぐ下る。天井と口縁の境に稜あり。口縁端部内面にも段あり。	天井部外面 2/3 回転ヘラ削り。その他は回転ナデ調整。	胎土：密。1mm 程度の長石・チャートを含む。焼成：良好。外面に自然釉。色調：外面、灰色。内面、灰白色。断面、暗赤灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
3	須恵器 杯蓋	口径 13.8 残存高 3.5	天井部と口縁部境の稜は、明瞭。口縁端部へはまっすぐ下る。端部内面の段は小さめで下方を向き、先端は丸みを持つ。	回転ナデ調整。	胎土：密。4mm 以下の小石・チャート含む。焼成：良好。色調：灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
4	須恵器 杯蓋	口径 12.6 残存高 3.7	天井部から口縁部の稜はやや甘く、口縁部先端にかけてはやや外方に下る。口端部内面の段は明瞭である。先端は丸く仕上げる。	回転ナデ調整。	胎土：密。1mm 以下の長石・チャート僅かに含む。焼成：良好。内面に自然釉付着。色調：灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
5	須恵器 杯蓋	口径 12.6 残存高 3.8	天井部から口縁部の稜は甘く、口縁部先端にかけてはまっすぐ下るがやや内傾する。端部内面の段は面状で、やや外反気味である。	回転ナデ調整。	胎土：密。1mm 以下の長石・チャート僅かに含む。焼成：良好。内面に自然釉付着。色調：灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
6	須恵器 杯身	口径 12.6 受部径 14.8 残存高 4.2	たちあがりは内傾しつつもやや湾曲気味である。端部内面には明瞭な段をもつ。受部は水平にのびる。	底部外面ヘラ削り。他は回転ナデ調整。	胎土：密。2mm 以下の長石・チャート含む。焼成：良好。受部一部に灰かぶり。内外面に自然釉付着。色調：外面、青灰色。断面、暗青灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
7	須恵器 杯身	口径 12.6 受部径 15.0 残存高 3.6	たちあがりは湾曲しながら内傾した後、中位で上方にのびる。端部内面に甘い段を持つ。受部は斜め上方にのび、端部はやや鋭い。	内外面回転ナデ調整。	胎土：密。2mm 以下の白・黒チャート若干含む。焼成：良好。色調：灰白色。残存：1/10 以下。反転復元。
8	須恵器 杯身	口径 11.6 受部径 14.4 残存高 3.4	たちあがりは内傾しつつまっすぐのびる。口縁端部内面には明瞭な段をもつ。受部は水平気味にのびる。	内外面回転ナデ調整。	胎土：密。2mm 以下の白・黒チャート若干含む。焼成：良好。色調：灰白色。残存：1/10 以下。反転復元。
9	須恵器 杯身	口径 12.4 受部径 14.6 残存高 2.8	たちあがりは内傾してのびる。端部内面には明瞭な段をもつ。受部は上方気味にのび短い。端部は丸く仕上げる。	回転ナデ調整。	胎土：密。1mm 以下の砂粒・僅かにチャート含む。焼成：良好。内外面に自然釉付着。色調：青灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
10	須恵器 杯身	残存高 2.5 受部径 13.0	たちあがりは欠損する。受部は水平にのび端部は丸く短めである。	底部外面ヘラ削り。他は回転ナデ調整。受部 2カ所に工具の当たり傷あり。	胎土：密。1mm 以下の砂粒・チャート含む。焼成：良好。色調：青灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
11	須恵器 壺	残存高 4.0	肩部はやや張り、体部へは内傾気味に下方に下る。	回転ナデ調整。体部外面にカキ目がみえる。	胎土：密。2mm 以下の長石・チャートを若干含む。焼成：良好。色調：灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
12	須恵器 高杯（脚部）	底部径 8.2 残存高 3.5	脚部は外下方に下る。底部先端は面を持ち内側に少しかえりを持つような形。3方向の方形スカシを持つ。	内外面とも回転ナデ調整。	胎土：密。1mm 以下の砂粒含む。焼成：良好。色調：灰色。残存：1/10 以下。反転復元。
13	須恵器 甕	口径 23.5 残存高 7.3	口縁部へは外上方にのびる。端部外面は丸みを持つ面状をし、断面三角形を呈する。外面には上位 1 条、下位 2 条の突帯の間に波状文を施す。	回転ナデ調整。カキ目の後、波状文を施す。	胎土：密。1mm 以下の砂粒含む。焼成：良好。色調：外面、灰色。内面、灰褐色。残存：1/10 以下。反転復元。

## 平成 24 年度調査 小結

本年度は、昨年度実施した陶器山 309・310 号窯の整理作業に重心をおきながら、例年と同様に個人住宅の建て替えなどの発掘調査を行なった。一年をとおしてみると、池尻城跡での調査が比較的多かったが、池尻城に関わる成果は芳しくなく盛土のみであったり、造成などすでに地山が削平されたりした例が多くを占めた。

そのような中、本書に収録した池尻遺跡（IJ12-01）では、既往の調査と同様な時期の遺物が出土した。小規模な調査ではあったが 12 世紀～13 世紀にかけての集落の続きをみることができた成果であったといえよう。また陶邑窯跡群 陶器山 42 号窯の灰原の一部が残存していた調査（SM12-01）では、これまでの成果が結びつくような調査であった。

単発的なあるいは小規模な調査であっても積み重ねながら繋げていくことによって、だんだんと真相に近づくことができると実感した調査年であった。

### 参考文献

- 狭山町史編纂委員会 1967 年『狭山町史 第一卷本文編』  
尾上実 1983 年「南河内の瓦器椀」『藤澤一夫先生古稀記念古文化論叢』  
和泉丘陵内遺跡調査会 1992 年『陶邑窯址群—谷山池地区の調査一』  
中世土器研究会 1995 年『概説 中世の土器・陶磁器』  
大阪狭山市立郷土資料館 1996 年『狭山と北條氏—秀吉から明治維新まで—』  
狭山池調査事務所 1998 年『狭山池 埋蔵文化財編』  
大阪狭山市史編さん委員会 2000 年『大阪狭山市史 第 12 卷 地名編』  
江戸遺跡研究会 2001 年『江戸考古学研究辞典』  
奈良文化財研究所紀要 2001 年『奈良文化財研究所紀要』  
佐藤隆 2004 年『大阪歴史博物館研究紀要 第 3 号』大阪市文化財協会  
大阪狭山市教育委員会 2003 年『大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 13』  
大阪府立近つ飛鳥博物館 2006 年『編年のものさし—陶邑の須恵器一』  
大阪狭山市教育委員会 2011 年『大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 21』

平成 23 年度調査一覧表（平成 23 年 1 月～平成 24 年 3 月まで）

遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積 (m <sup>2</sup> )	調査方法	概 要
狹山藩陣屋跡	狹山 3-2556-6	2011.1.11	個人住宅	61.49	発掘	東側では地表下約 20cm で地山、西へ向けて緩やかに地形が下がるが、掘削は基礎深度までとし、遺構・遺物の確認はできなかった。
陶邑窯跡群	池之原 3-977-1 の一部	2011.2.10	個人住宅	177.88	立会	掘削は盛土内におさまる。
中高野街道	金剛 2-14-10、-11	2011.2.17	個人住宅	130.17	立会	搅乱土のみ。遺構・遺物なし。
陶邑窯跡群	今熊 6-508-5	2011.2.23	個人住宅	80.14	立会	地表下 1.8m までは褐色系の整地土。その直下は青灰砂質の地山が続く。遺構・遺物は認められず。
遺跡外	狹山 2-880-2	2011.4.12	葬儀会館	1515.98	試掘	地表下 60cm で旧耕作土が 15cm ~ 20cm の厚さで堆積し、その直下は地山であった。遺構・遺物なし。
遺跡外	池尻中 2-870-1	2011.4.14	寄宿舎	816.14	試掘	地表下 20cm は耕作土、その下位は流れ堆積を示す灰褐色砂礫が続き、湧水が著しかった。遺構・遺物の確認はなし。
遺跡外	半田 5-150-1、151-1、151-2 の一部、151-3、152 の一部、160、196-4 の一部	2011.4.22	宅地開発	1408.47	試掘	南側では層厚 30cm の現耕土の下は、流れ堆積の砂層が続く。北側では層厚 20cm の現耕土の下面から切り込む近世の埋甕が一ヵ所認められたが、他に遺構や遺物は認められなかった。
半田城跡	半田 1-80-1 の一部、82-1、83-1 の一部	2011.4.20・4.25	共同住宅	984.70	発掘	<b>本報告書に収録 (HDJ11-01)</b>
池尻城跡	池尻中 3-10-3	2011.5.16	個人住宅	94.24	立会	35cm の盛土の下に灰色砂質の耕作土が堆積し、地表下 70 ~ 80cm で灰褐色砂礫土が見られたが、遺構・遺物は認められなかった。
陶邑窯跡群 金蔵寺跡	今熊 4-710-61	2011.6.2	個人住宅	104.2	立会	掘削は盛土内におさまり、遺構・遺物は認められず。
茱萸木北遺跡	茱萸木 6-886-2 の一部	2011.6.3	個人住宅	459.74	立会	耕作土の下に黄白色粘土の地山が見られたが、遺構や遺物は認められなかった。
遺跡外	狹山 5-2262-4、2262-7 の一部	2011.7.5	個人住宅	225.96	試掘	池尻新池北窯と池尻新池南窯に挟まれた区画である。工事による掘削は 60cm で全て盛土であり、窯や須恵器等は認められなかった。
狹山藩陣屋跡	東池尻 3-2479-5、-6 の各一部	2011.7.8	個人住宅	125.07	発掘	20cm の現代盛土、整地土の下に灰色粘土層（旧耕作土）があり、これを除去すると、陣屋遺構面と思われる赤褐色土が見られたが、遺構・遺物は特に確認できず。工事による掘削もこの面には及ばないと判断できた。
中高野街道	半田 2-422	2011.7.12	個人住宅	244.61	立会	掘削は全て盛土内におさまり、遺構・遺物は確認されず。
遺跡外	狹山 1-896-1、897-1、899-3	2011.7.25	店舗建設	914.44	試掘	搅乱層のみで遺構・遺物は確認できなかった。
遺跡外	金剛 1-10-4	2011.7.25	共同住宅	681.24	試掘	全て解体時の搅乱土であり、遺構・遺物は確認できず。
西高野街道	茱萸木 5-633	2011.7.30	個人住宅	288.51	立会	現代の井戸の下に近世の遺構（井戸か）が見られ、瓦や陶磁器が多数含まれていた。周辺で近世の遺構が確認される可能性がある。
池尻新池北窯	狹山 5-2262-1	2011.7.30	個人住宅	58.21	立会	掘削土は全て盛土であり、遺構・遺物等は認められなかった。
陶邑窯跡群	茱萸木 1-2699-3	2011.8.9	個人住宅	396.70	立会	耕作土のみで、遺構・遺物なし。
半田遺跡	茱萸木 1-265-5	2011.8.19	個人住宅	160.32	立会	掘削土は全て盛土であり、遺構・遺物等は確認できなかった。

遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積 (m <sup>2</sup> )	調査方法	概 要
半田城跡	半田 1-86-1	2011.8.31	学習塾建築	499.30	発掘	本報告書に収録 (HDJ11-02)
池尻城跡	池尻自由丘 3-188、-203-1 の各一部	2011.9.27	個人住宅	336.02	立会	工事基礎深は 10cm ほどと浅く、盛土のみで、遺構・遺物も認められなかった。
西高野街道 陶邑窯跡群	山本南 130 の一部	2011.9.29	個人住宅	143.88	立会	掘削土は近代以降の整地土で、遺構・遺物は確認できなかった。
中高野街道	狭山 1-2367-1、 -2	2011.10.3 ～ 10.4	地下埋蔵 物調査	312.37	発掘	本報告書に収録 (NKY11-01)
中高野街道	狭山 4-2301-3	2011.10.4	地下埋蔵 物調査	119.49	発掘	本報告書に収録 (NKY11-02)
陶邑窯跡群	池之原 1-950- 1、-3	2011.10.17 ～ 10.24	倉庫建設	5332.28	発掘	本報告書に収録 (SM11-01)
狭山藩陣屋 跡	狭山 3-2588-1	2011.10.26	個人住宅	195.11	発掘	地表下 20cm で黄褐色砂礫混じり粘土の地山の一部を確認したが、ほとんどは盛土であり、遺構・遺物は認められなかった。
中高野街道	狭山 4-2287 甲、 2290-1 の各一部、 2292-1	2011.10.31	個人住宅	142.05	発掘	深さ 80cm を掘削したところ、40cm までは搅乱層で、直下は黄色粘土の地山に至り、遺構・遺物、包含層は認められなかった。
陶邑窯跡群 新池遺跡	茱萸木 4-372-7	2011.11.1	個人住宅	279.64	立会	掘削深度の約 40cm のほとんどが盛土であり、遺構や遺物は確認できなかった。
狭山藩陣屋 跡	東池尻 3-2479- 5、2479-19	2011.11.8	個人住宅	139.51	発掘	南北トレンチを設定し 70cm を掘削した。30cm までは盛土、その下に 20cm の整地土、地表下 50cm で耕作土が水平に堆積。耕作土を除去すると黄褐色土の地山が確認できたが、遺構・遺物は認められなかった。
陶邑窯跡群	山本南 58-1、2	2011.11.28 ～ 11.29	ため池埋 め立て	6575.13	発掘	池斜面に MT37・MT258 が周知されているため、範囲確認調査を実施した。
陶邑窯跡群 金蔵寺跡	今熊 4-690-2、 693-1	2011.12.1	分譲住宅 建設	1337.06	発掘	陶器山 75 号窯の周辺斜面裾を取り巻くようにトレンチを設け、灰原等の有無確認を行ったが、遺構・遺物は認められなかった。
東野廃寺	東野中 2-1006- 10	2011.12.19	個人住宅	91.80	発掘	25cm までは現代整地土、その下 40cm までは旧耕作土が見られ、直下は黄白色粘土の地山となる。遺構・遺物等は確認されなかった。
遺跡外	東野西 2-837、 838、839、840- 1、841-1、845-3 の一部、845- 4、846-1、-3、 -4、847、848- 1、-2、849-1、 851-2、852-3 地先里道	2011.12.26 ～ 12.27	店舗建設	7678.99	試掘	本報告書に収録 (111226 区)
陶邑窯跡群	山本南 58-1、 -2	2012.1.10 ～ 2.26	池埋め立 て	6575.132	発掘	本報告書に収録 (MT309・MT310)
陶邑窯跡群	池之原 2-1027-1 の一部	2012.1.27	個人住宅	211.94	立会	建物建築予定部分の土層断面を観察したところ、現地表下 20cm 程までは現耕作土、その直下は黄白色砂礫混じり粘土の地山であった。遺構遺物等は認められなかった。
陶邑窯跡群	今熊 2-1771-1、 1766-6、-7 の 各一部	2012.2.16	個人住宅	122.30	立会	掘削深度は 30cm で、耕作土が薄く残るもの直下は地山で、遺構遺物等は認められなかった。
狭山陣屋跡	狭山 3-2556-13	2012.3.22	個人住宅	66.68	発掘	当該地は、東池尻 2 号窯のドットがかかる地である。基礎深度まで掘削を行ったが、地山には至らず盛土のみで遺構遺物等は確認できなかった。

平成 24 年度調査一覧表（平成 24 年 4 月～ 12 月まで）

遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積 (m <sup>2</sup> )	調査方法	概要
半田城跡	半田 5-91-1 の一部、91-2 の一部	2012.4.17	個人住宅	188.31	立会	地表下 50cm で黄色土の地山に至り、地山面上で円形遺構が見られたが、基礎掘削は 15cm 程度であり工事による影響はないと判断した。
陶邑窯跡群	池之原 3-511-1	2012.4.26	個人住宅	423.53	立会	掘削深度は 60cm である。30cm までは搅乱土、その下に 10cm 程の耕作土が残り、50cm で黄褐色粘土の地山に至る。遺構遺物等は確認できなかった。
池尻中 1 号窯	池尻中 1-444-10	2012.5.14	個人住宅	121.46	発掘	申請地内に池尻中 1 号窯のドットが落とされている。基礎深度 30cm を掘削したが全て盛土であり、窯や須恵器は確認されなかった。
池尻城跡	池尻中 3-552-8	2012.5.15	個人住宅	83.59	立会	現地表下 90cm まで掘削したところ、80cm までは現代の盛土、その下位は橙粘土を含む層が続き、地山は未確認である。遺構遺物等は確認されなかった。
遺跡外	金剛 2-10-3、10-18、10-19	2012.5.21	共同住宅	850.31	試掘	敷地内の 3 カ所で確認を行ったところ、いずれの地点においても遺構遺物等は確認されなかった。
遺跡外	池尻北 2-829-1	2012.6.6	長屋住宅	827.12	試掘	申請地内に南北方向のトレンチを 2 カ所設定し、深さ 70cm まで掘削し遺構等の確認をおこなったが、両トレンチとともに耕作土の直下は、現地表下 30cm ~ 35cm で地山に至り、遺構遺物等は確認されなかった。
遺跡外	大野東 377-2	2012.6.11, 8.27	病院棟新築	117,958.09	試掘	開発前の地図を見ると、調査地は北方向へ開く細い谷地にあたる。4 カ所のトレンチを設定し確認を行った結果、病院建設時の造成により大規模な土地改変が行われたことがわかり、2m 以上掘削を行ったが地山さえ確認できないほど盛土がなされていた。遺構遺物等も認められなかった。
遺跡外	東池尻 4-1030-1	2012.6.19	宅地開発	802.38	試掘	道路予定範囲内に 3 カ所のトレンチを設定した。深さ 1.2m を掘削したが、いずれのトレンチでも現地表下 80 ~ 90cm までは盛土、その下に耕作土が約 20cm 堆積し、その直下は青灰色砂礫土の地山に至る。遺構遺物等は認められなかった。
陶邑窯跡群	山本東 402-1、408-1	2012.6.25	個人住宅	2111.72	発掘	申請地内に 3 カ所のトレンチを設定したが、いずれの地点においても現地表下約 50cm で地山に至り、遺構遺物等は認められなかった。
池尻城跡	池尻自由丘 3-121-3・124-9 (各一部)、121-22、124-11	2012.7.19	個人住宅	258.88	立会	掘削土はすべて搅乱層であり、遺構遺物等は確認されなかった。
遺跡外	東茱萸木 4-1126 他 22 筆	2012.7.27	病院増築	2,475	試掘	建設範囲内に南北方向にトレンチを設定した。地表下 40cm までは盛土、その下は 2m まで確認でしたが、谷に埋積した黄褐色粘土混砂礫土の自然堆積土であった。遺構遺物は認められなかった。
池尻城跡	池尻中 3-614-35	2012.8.6	個人住宅	93.33	発掘	申請地内にトレンチを設定した。深さ 1.3m まで掘削したが、すべて現代の盛土であった。
大鳥池遺跡	東池尻 5-1462-32、33、34、36	2012.8.27	個人住宅	86.89	発掘	深さ 50cm を掘削した。現地表下 40cm までは現代の盛土、その下に灰色の耕作土が薄く残るもの直下は青灰色砂礫の地山となり、遺構遺物等は認められなかった。
池尻遺跡	池尻中 3-649-5	2012.9.21 ~ 9.26	個人住宅	104.63	発掘	本報告書に収録 (IJ12-01)

遺跡名	調査地	調査日	調査原因	面積 (m <sup>2</sup> )	調査方法	概 要
陶邑窯跡群 西高野街道	茱萸木 4-385-1、 385-2	2012.9.26	個人住宅	274.30	発掘	調査地は丘陵斜面裾をとる西高野街道の東に面している。幅1m、長さ5mのトレンチを設定したが、盛土直下は黄色粘土の地山となり遺構遺物等は確認されなかった。
池尻城跡	池尻中 3-598-4 の 一部、598- 6、598-9	2012.10.15	個人住宅	436.22	発掘	建物建築範囲内に幅0.5m、長さ4.5mのトレンチを南北方向に設定し、深さ30cmを掘削したところ、北側の盛土下で近世以降と思われる青灰色砂礫層が見られたが、遺構遺物等は認められなかった。
陶邑窯跡群 (陶器山42 号窯)	山本東 12-3	2012.10.16	個人住宅	215.57	発掘	<b>本報告書に収録 (SM12-01) MT42号窯</b>
遺跡外	東池尻 2-1218-1、 -2、1219、 1220、1221、 1222-9、 1237の各 一部、及び 1222-7、-18	2012.10.29	宅地造成	2,896.46	試掘	申請地内道路敷設範囲に5ヵ所のトレンチを設定し確認を行った。現地表下50cmまでは現耕作土、50~90cmで地山となるが、その間に褐色系粘土等が堆積するが、遺構遺物等は認められなかった。
茱萸木北 遺跡	東茱萸木 2-753-30	2012.12.3	個人住宅	165.28	発掘	幅0.8m、長さ3m、深さ40cmの掘削状況を観察した。掘削土はすべて現代の整地土であり、遺構遺物等は確認されなかった。
狭山陣屋跡	狭山 4-2469-1	2012.12.12	個人住宅	174.21	発掘	建物建築予定範囲内に幅0.6m、長さ4mのトレンチを設定し深さ40cmを掘削した。現地表面から10cm~30cmは現代の整地土、その下に近世以降の整地層が確認できる。整地層を除去した深さ40cmで近世遺物を含む遺構面が認められたが、工事掘削深度は遺構面には及ばなかった。
池尻城跡	池尻自由ヶ 丘 3-127-47	2012.12.15	個人住宅	98.40	発掘	幅0.6m、長さ2mのトレンチを設定した。深さ1.5mまで掘削したが、1.4mまでは現代の盛土で直下に灰色粘土が続いていた。遺構遺物等は確認できなかった。
池尻遺跡	池尻中 3-649-4	2012.12.20	個人住宅	104.62	発掘	当該地は調査地を含む宅地造成時に道路部分の一部を発掘調査し、遺構遺物が多数検出された場所の西側に隣接する。しかし、今回は造成により60cm以上の盛土がなされており、工事による掘削は遺構等に全く影響はなく盛土内におさまるものであった。
池尻城跡	池尻自由丘 3-131-30	2012.12.25	個人住宅	109.14	発掘	工事深度は20cmと浅く、掘削土は全て現代の盛土であり遺構遺物等も確認されなかった。

# 図 版



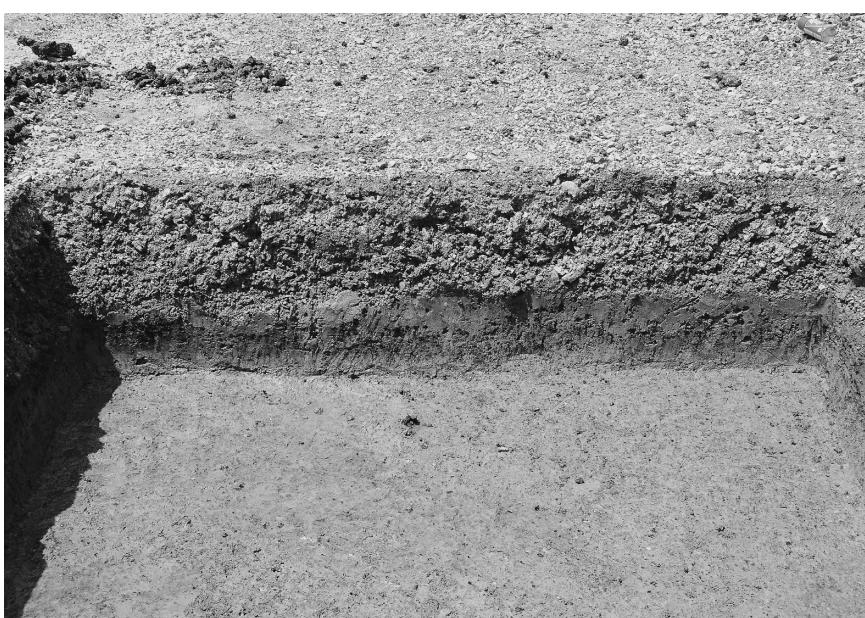
図版1 半田城跡 HDJ11-01



調査地全景（北から）



1 トレンチ（南西から）



4 トレンチ土層断面（北から）

図版2 中高野街道 NKY11-01・NKY11-02

11-01 2トレンチ(南から)



11-01 2トレンチ埋甃検出状況  
(西から)



11-02 2トレンチ(北から)





1-2 トレンチ溝 1 検出状況  
(南東から)



1-2 トレンチ溝 1  
須恵器出土状況 (南東から)

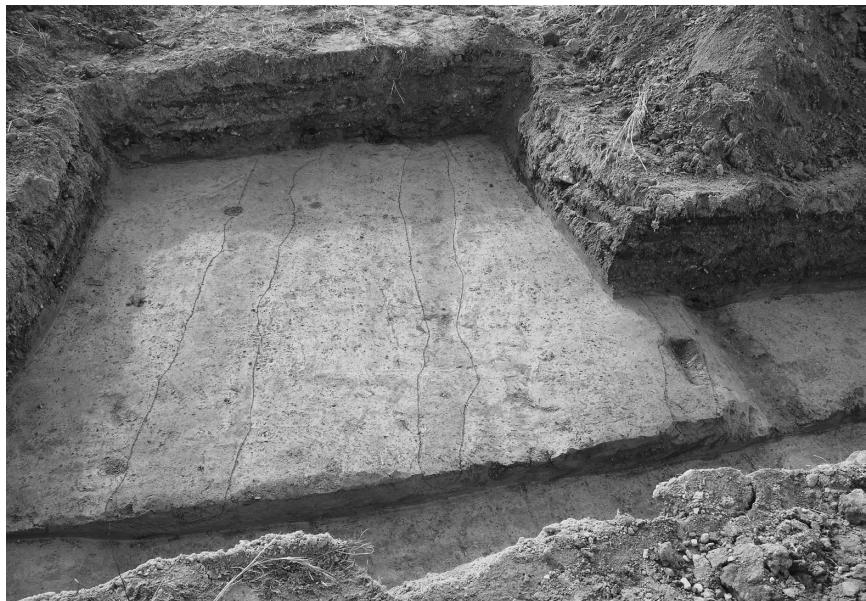


1-2 トレンチ溝 1 完掘状況  
(南東から)

調査地全景（北東から）



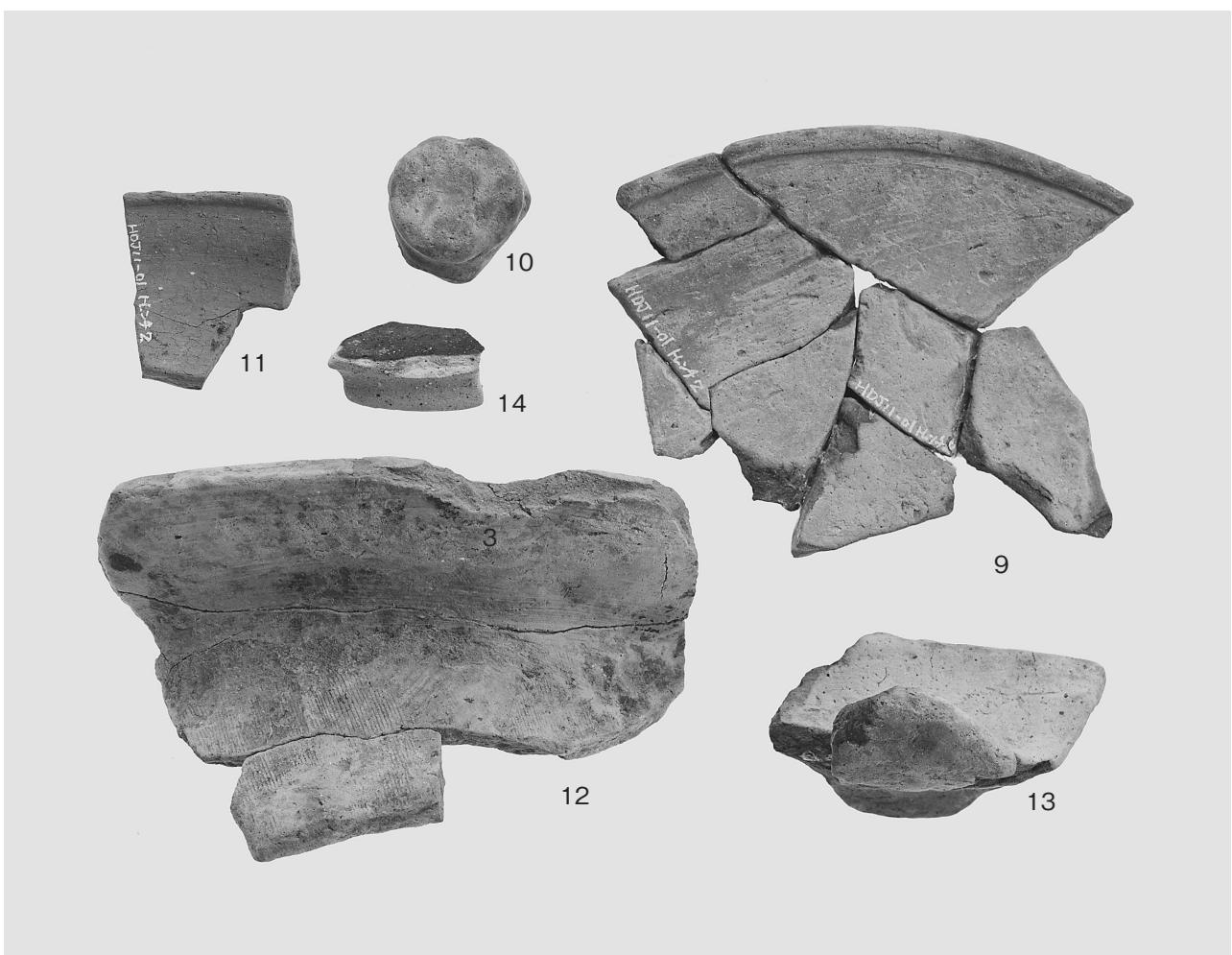
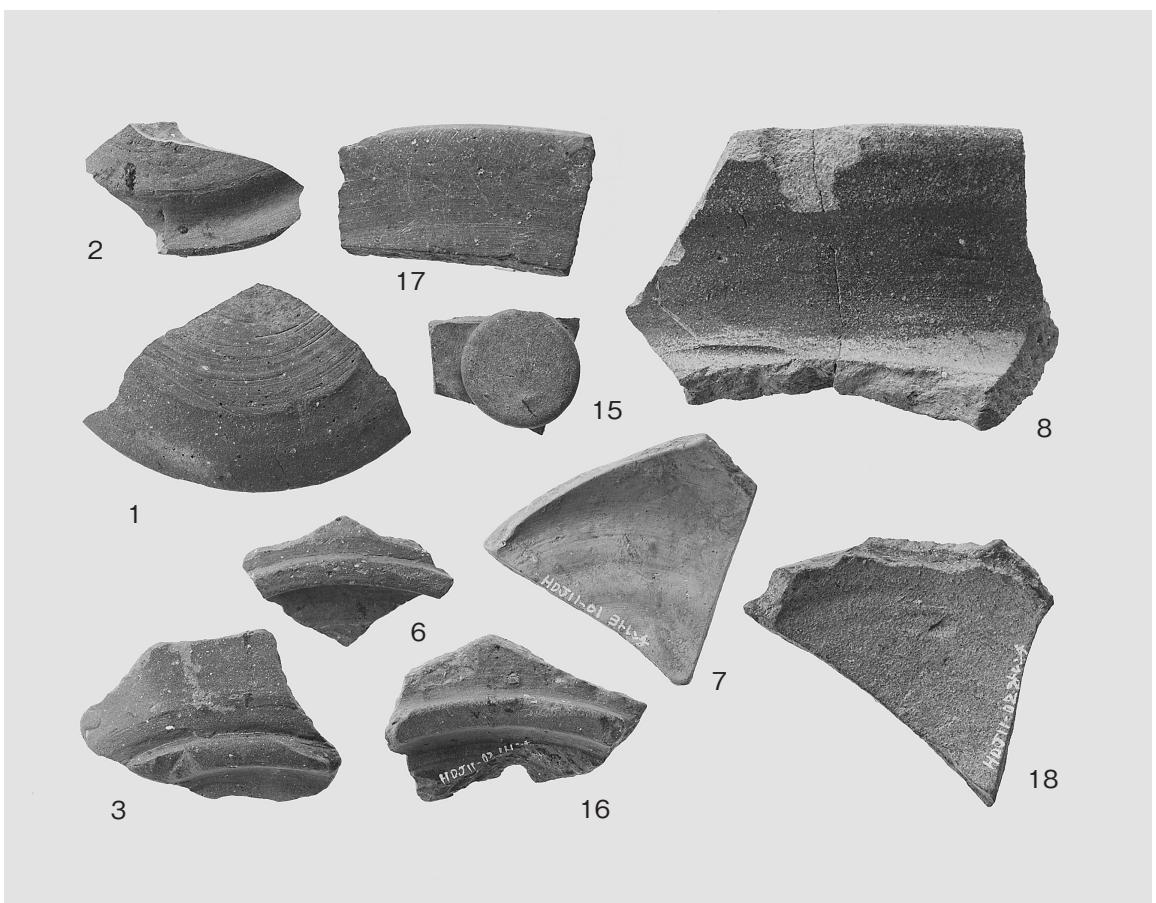
2 トレンチ鋤溝検出状況  
(北から)



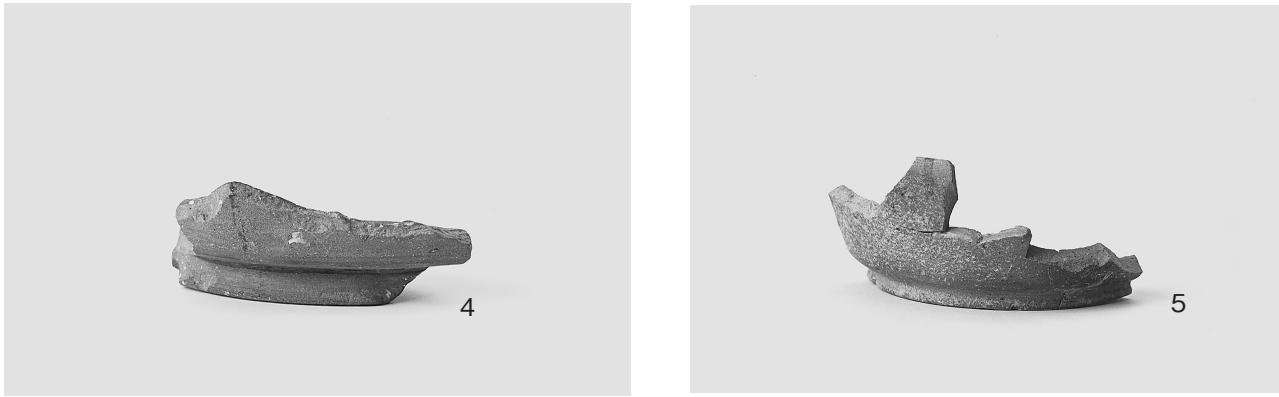
2 トレンチ鋤溝完掘状況  
(北から)



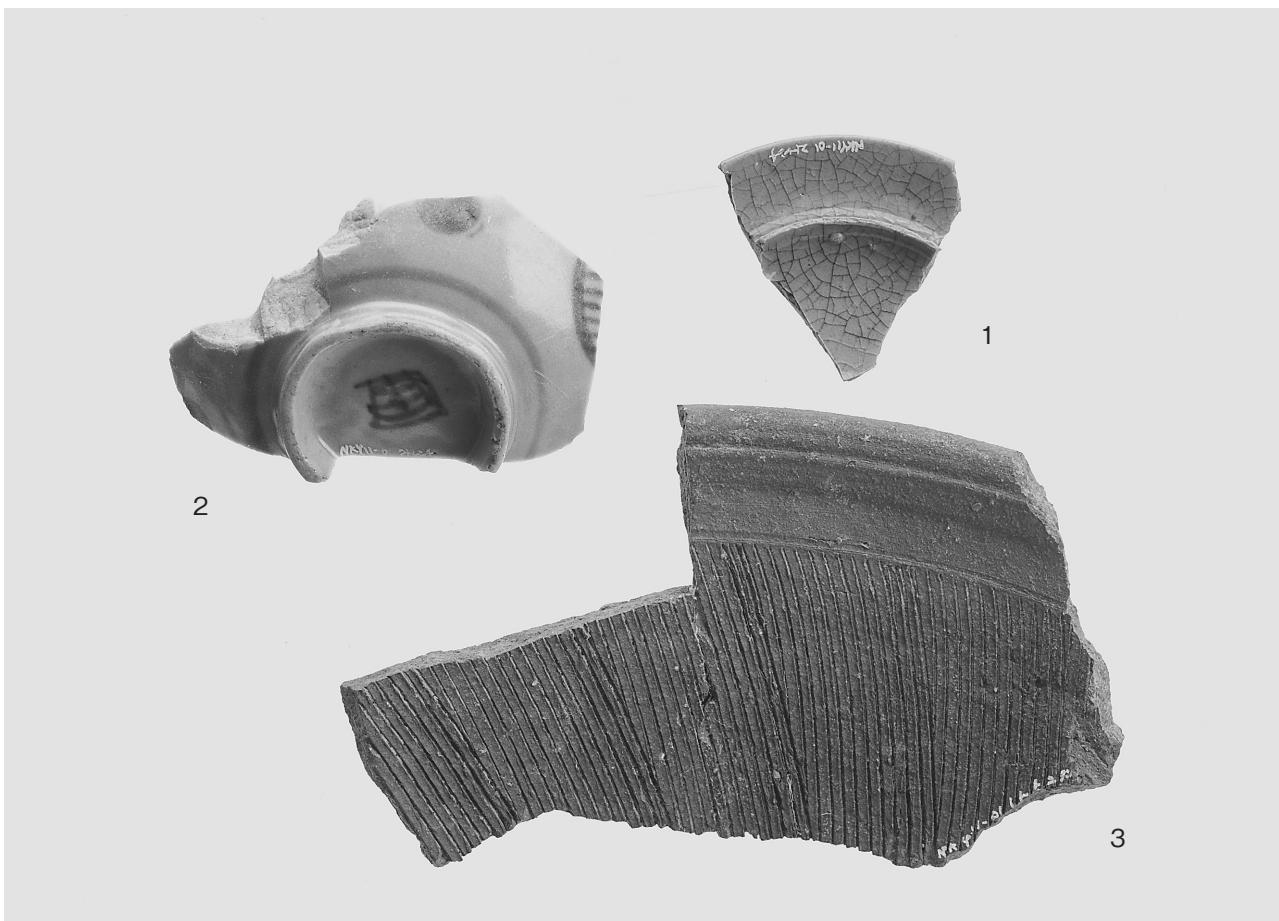
図版5 HDJ 11-01・02出土遺物



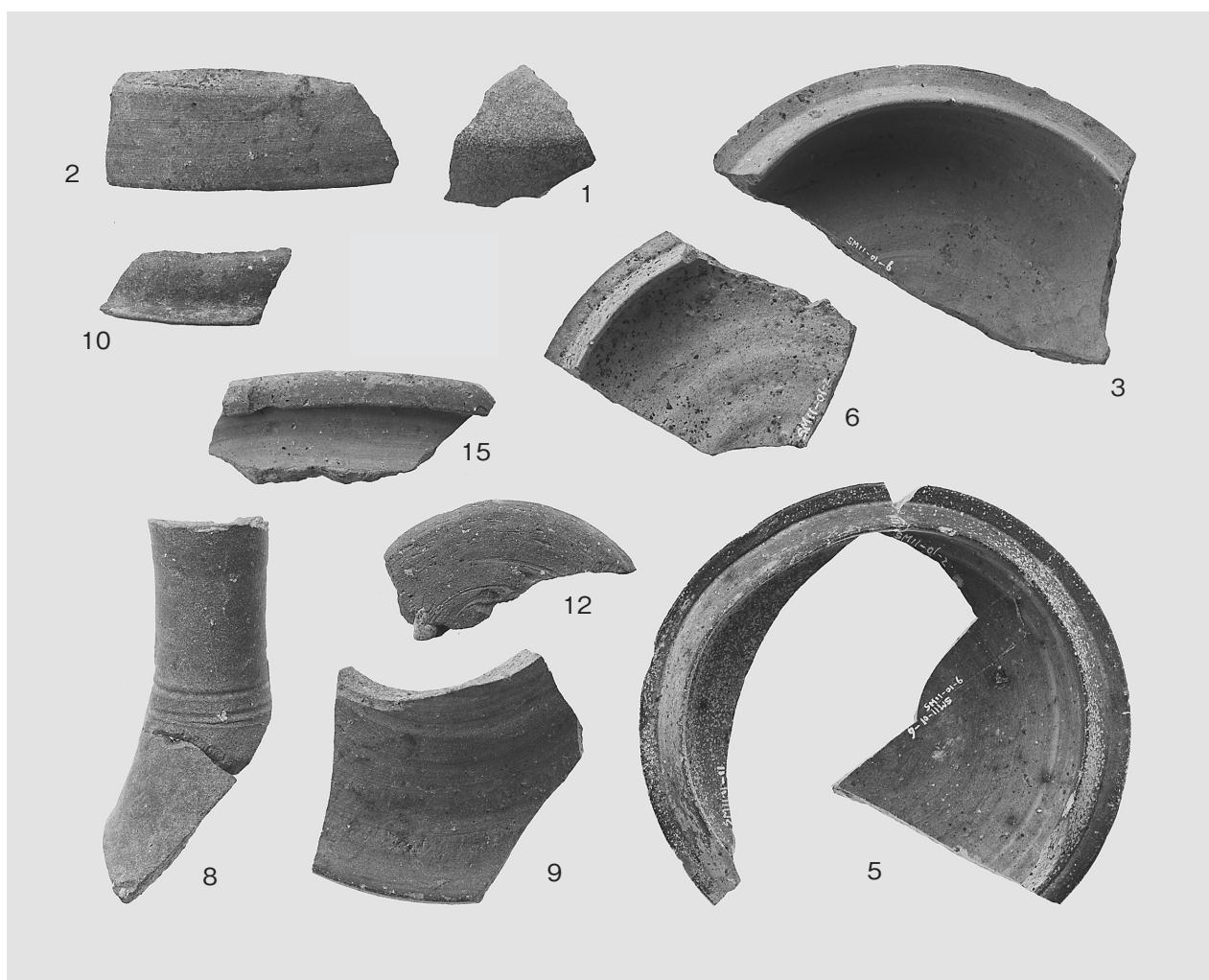
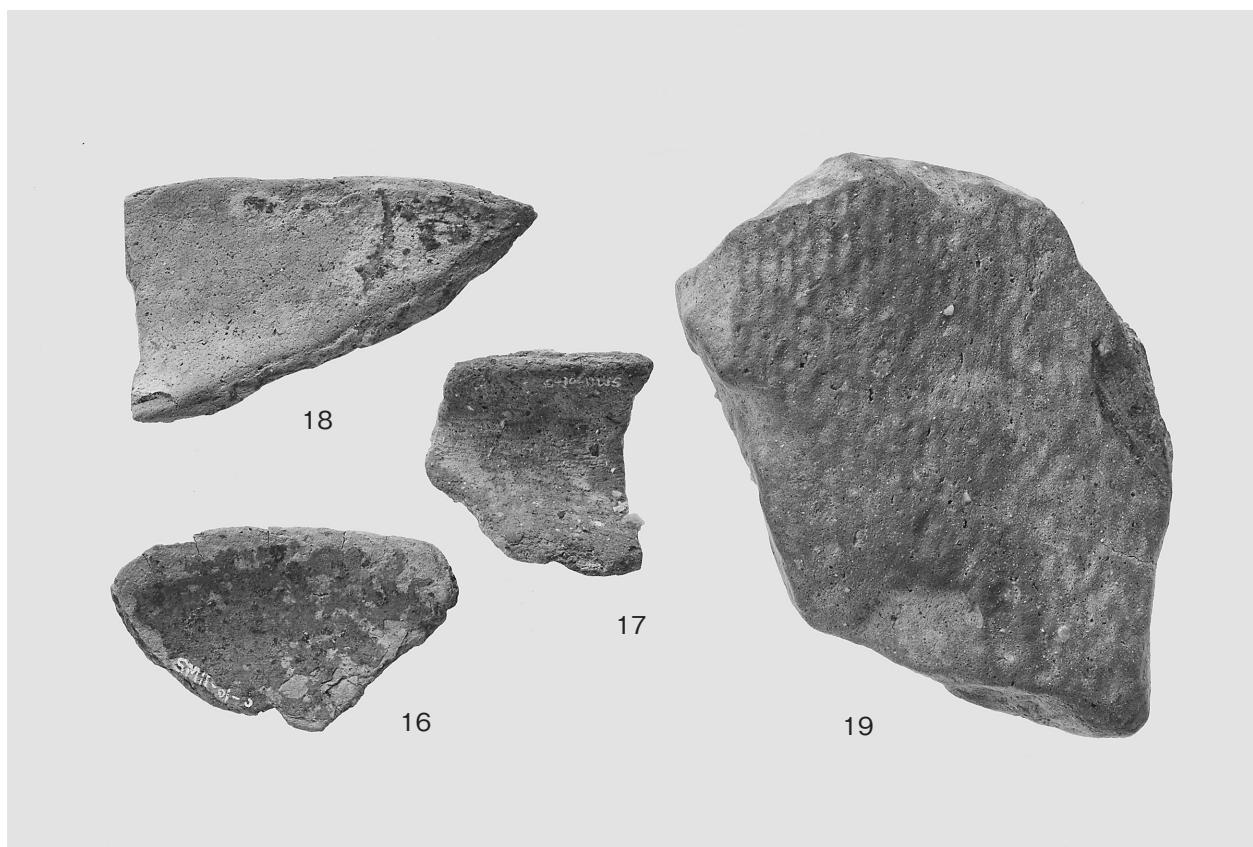
図版6 HDJ 11-01・02出土遺物



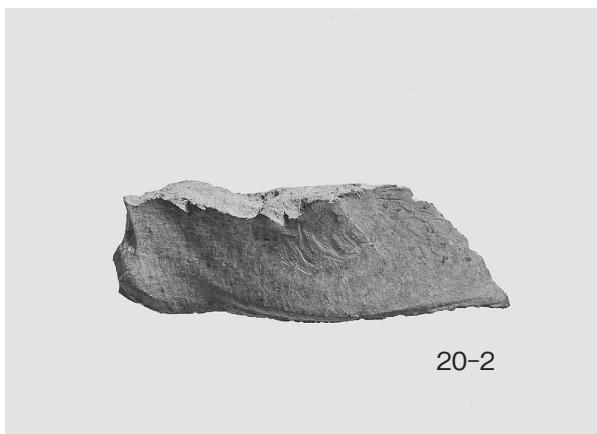
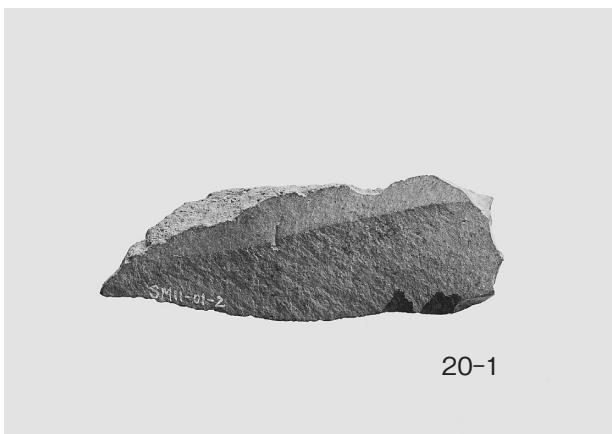
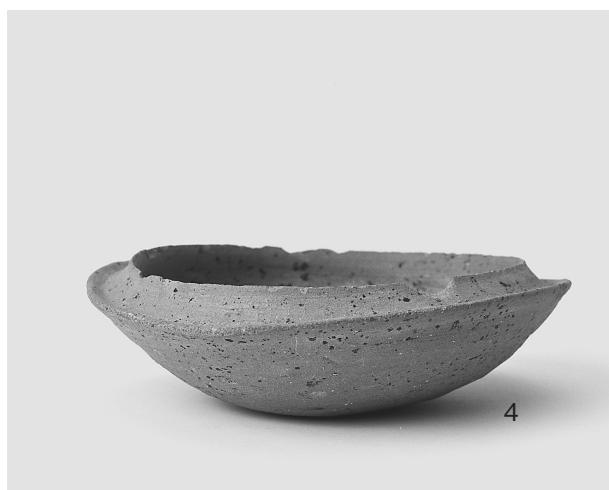
図版7 NKY 11-01出土遺物



図版8 SM11-01出土遺物



図版9 SM1-01出土遺物



図版10 陶邑窯跡群MT309・310号窯



調査トレンチ・灰原（北東から）

図版11 陶邑窯跡群MT310号窯



窯体・焚口部分（北東から）

図版  
12  
池尻遺跡—I  
J  
12  
—  
01





調査地全景（南東から）



1 トレンチ（北から）

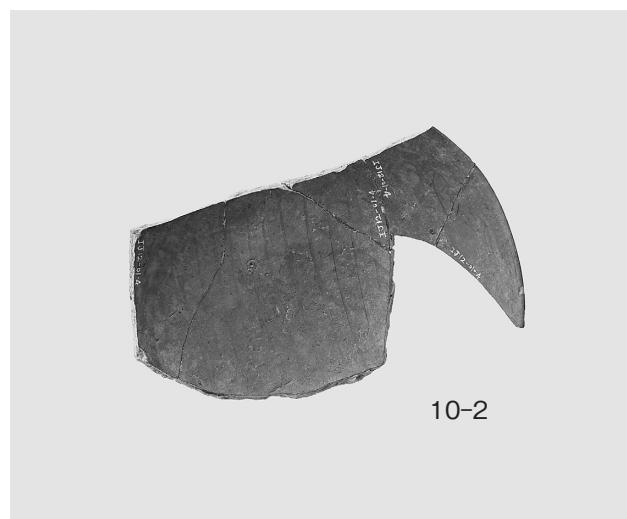


2 トレンチ（北から）

図版14 池尻遺跡—IJ12—01出土遺物



10-1



10-2



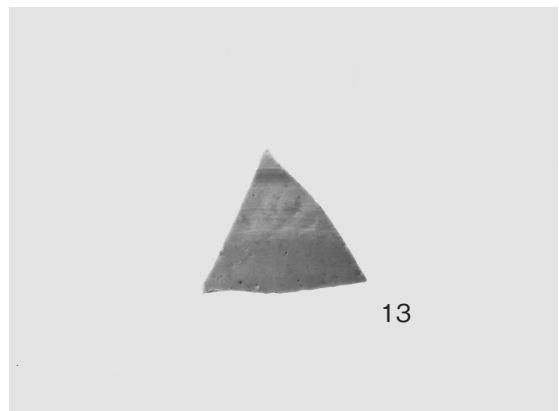
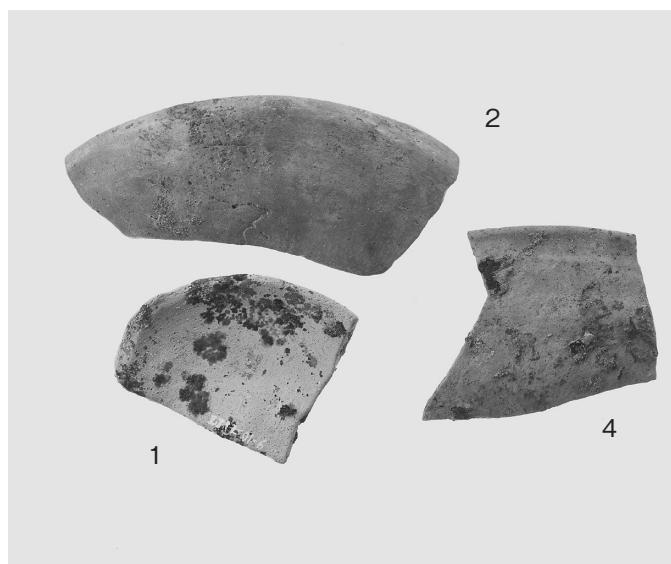
8-1



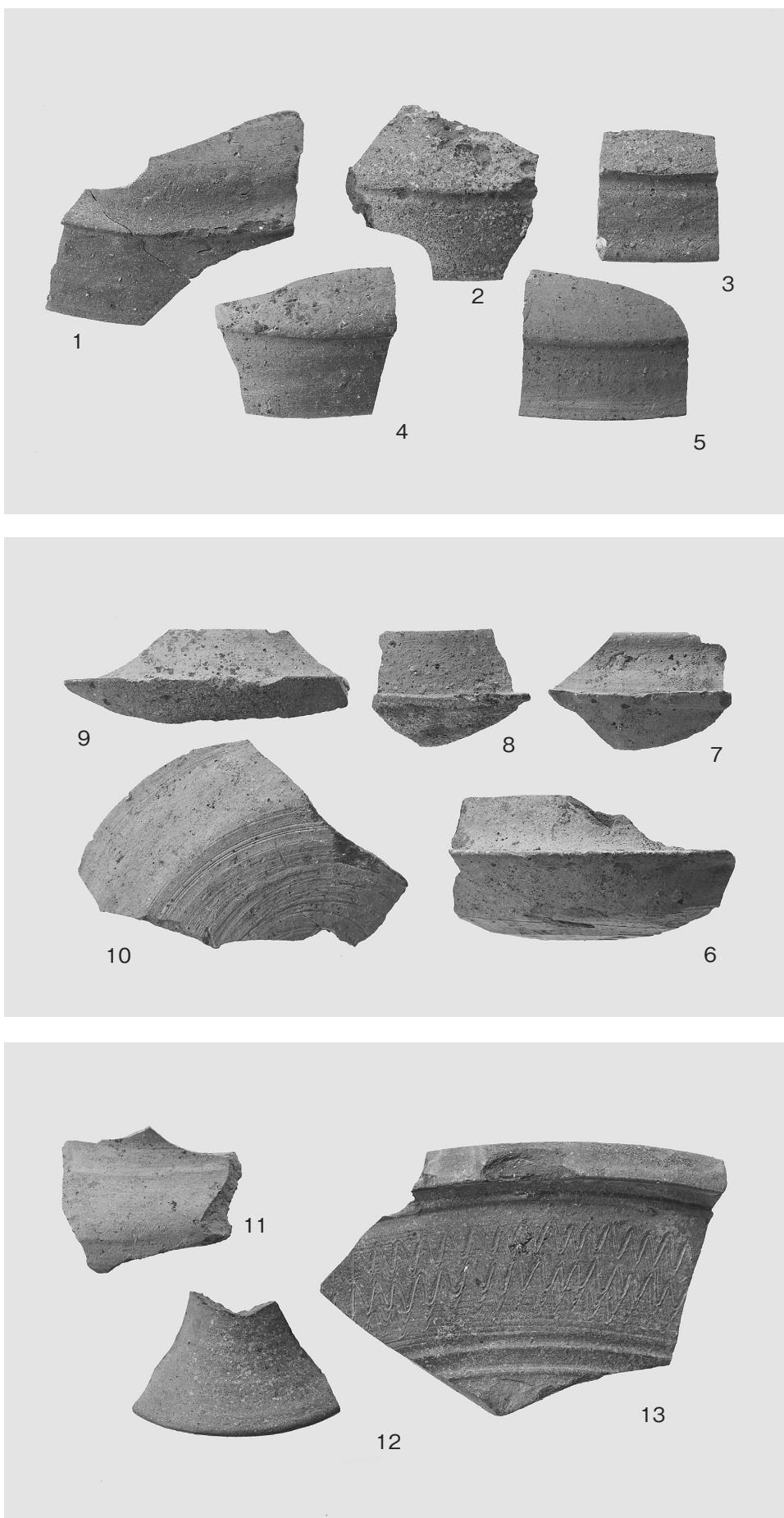
8-2



図版 15 池尻遺跡—IJ12—01出土遺物



図版 16  
陶器窯跡群 S  
M12-01  
(M-T42)  
出土遺物



# 報 告 書 抄 錄

ふりがな	おおさかさやましないいせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ 22							
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 22							
副書名								
卷次								
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書							
シリーズ番号	41							
編著者名	土江 文子							
編集機関	大阪狭山市教育委員会							
所在地	〒 589-8501 大阪府大阪狭山市狭山 1 丁目 2384 番地 1 号 TEL 072-366-0011							
発行年月日	平成 25 年 (2013 年) 3 月 25 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	調査区	北緯 。' "	東経 。' "	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	調査原因
半田城跡	大阪狭山市半田	27231	-	HDJ11-01	34° 29' 49"	135° 33' 21"	5.06	平成23年 4月20・25日
	大阪狭山市半田	27231	-	HDJ11-02	34° 29' 49"	135° 33' 23"	10.00	平成23年 8月31日
中高野街道	大阪狭山市狭山	27231	-	NKY11-01	34° 30' 14"	135° 33' 23"	47.00	平成23年 10月3・4日
	大阪狭山市狭山	27231	-	NKY11-02	34° 30' 16"	135° 33' 21"	8.00	平成23年 10月4日
陶邑窯跡群	大阪狭山市池の原	27231	-	SM11-01	34° 30' 21"	135° 32' 42"	56.00	平成23年 10月17~24日
	大阪狭山市東野西	27231	-	111226 区	34° 31' 31"	135° 33' 23"	28.21	平成23年 12月26・27日
陶邑窯跡群	大阪狭山市山本南	27231	-	MT309・ MT310	34° 30' 27"	135° 32' 11~12"	70.25	平成23年 11月28日~ 平成24年 2月26日
池尻遺跡	大阪狭山市池尻中	27231	-	IJ12-01	34° 50' 68"	135° 55' 35"	14.90	平成24年 9月21~26日
陶邑窯跡群	大阪狭山市山本東	27231	-	SM12-01 (MT42)	34° 50' 62"	135° 54' 51"	12.05	平成24年 10月16日
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
半田城跡	城館跡	中世	土坑状遺構・溝状遺構			土師器・須恵器等		検出のみ
中高野街道	街道	平安~ 近世	土坑状遺構・溝状遺構			陶器・磁器・瓦・石製品等		検出のみ
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳	溝状遺構			土師器・須恵器等		
		中世	鍬溝			土師器・須恵器		
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳~ 飛鳥	須恵器灰原・瓦陶兼業窯			須恵器・平瓦等		次年度報告
池尻遺跡	集落跡	中世	土坑等			瓦器・土師器・磁器等		
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳	陶器山 42 号窯灰原の一部			須恵器等		

大阪狭山市文化財報告書 41

## **大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 22**

発 行 日 平成 25 年（2013 年）3 月 25 日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会  
大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384番地の1

印 刷 橋本印刷株式会社  
奈良県葛城市竹内 365 番地 1